

5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

始



339
282

大洲案内

小川薰水編
右文堂發行

339-282



はしがき

伊豫郡の花「あり」岡田の薫風「あり」更に「南郡案内」あり「南豫案内」あり
 宇和島案内「あり」、而して獨り喜多郡を世上に紹介すべき案内書なし。
 編者深く是を慨し、忽ち「大洲案内」の小冊成るも事は急卒の計畫になり
 て頗る粗漏不秩序なるを免れざるも他日更に發行せんとする「喜多郡案内」
 に盡すを得ん乎、茲に本書の發行に對し四方尊知諸君の深甚なる御助力を
 謹謝す。

大正二年九月 肱川橋落成の記念日 薫水漁郎 識



資積 本立 金立 十六金 十金 四万 四万

本店 喜多郡大洲町

株式 大洲商業銀行

電話 壹番
 電略 ヲシ

支店 東宇和郡野村

339-282



はしがき

伊豫郡の花あり「岡田の薫風」あり更に「南郡案内」あり
 宇和島案内あり、而して獨り喜多郡を世上に紹介すべき案内書なし
 宇和島案内あり、而して獨り喜多郡を世上に紹介すべき案内書なし
 編者深く是を慨し忽ち「大洲案内」の小冊成るも事は急卒の計畫になり
 て頗る粗漏不秩序なるを免れざるも他日更に發行せんとする「喜多郡案内」
 に盡すを得ん乎、茲に本書の發行に對し四方尊知諸君の深甚なる御助力を
 謹謝す。

大正二年九月 肱川橋落成の記念日 薫水漁郎 識



資積 本立 金立 金立
 十六万 十六万 十六万 十六万
 四万 四万 四万 四万

大正二年七月現在

本店 喜多郡大洲町

株式 大洲商業銀行

電話 壹番
電略 ヲシ

支店 東宇和郡野村



喜多郡

東は上浮穴郡に接し南は東宇和郡、西は四宇和
 北は伊豫郡に隣りて縣下の中の山國であるが、地
 勢上から謂へば「北豫」の關係が最も多い、周圍
 七里の神南山と延長十八里の肱川で名高い。
 縣下で有数の養蠶地で年額二百萬圓の生糸の産出
 は全く縣下無敵の誇りである。製紙、材木、殖林、
 畜産等も觀るべきものが多い、伊豫の小京都の賞
 ある大洲は意氣で風流な所である。
 主蠟に養峰、肱川の香魚も名高いもの一つである
 中江藤樹、矢野玄道の縁故の場所として既に縣下に
 識られて居る。

大洲町

『伊豫の大洲』と關西で生糸
 の生産地として名高い大洲
 町は何んな場所か……と他
 縣の人々が問を發するだけ
 有つて、更に四國一の『肱
 川鐵橋』で名高くなつたが
 先づ我愛媛縣の中では松山
 宇和島、今治、八幡濱と共
 に著名屈指の繁華な町とな
 つて居る大洲町は縣下有數
 の工業地として既に世人に
 識られて居る。



大洲本町、一和及び西宇和郡に
 通する要路に當り
 對岸肱川を挟んで
 大洲村との交通は
 更に頻繁を極めつ
 肱川の下流には
 喜多郡の首府で、
 松山市、宇和島町
 間の中央に位し伊
 豫、上浮穴、東宇
 和、及西宇和郡に
 通する要路に當り
 對岸肱川を挟んで
 大洲村との交通は
 更に頻繁を極めつ
 肱川の下流には

大洲案内

(1)



四里餘りで長濱港に達する。
大洲町を大別して、本町、中町、志保町、旭町、比地町、榊形、三之丸、鐵砲町、片平町及び山火根に分ける。

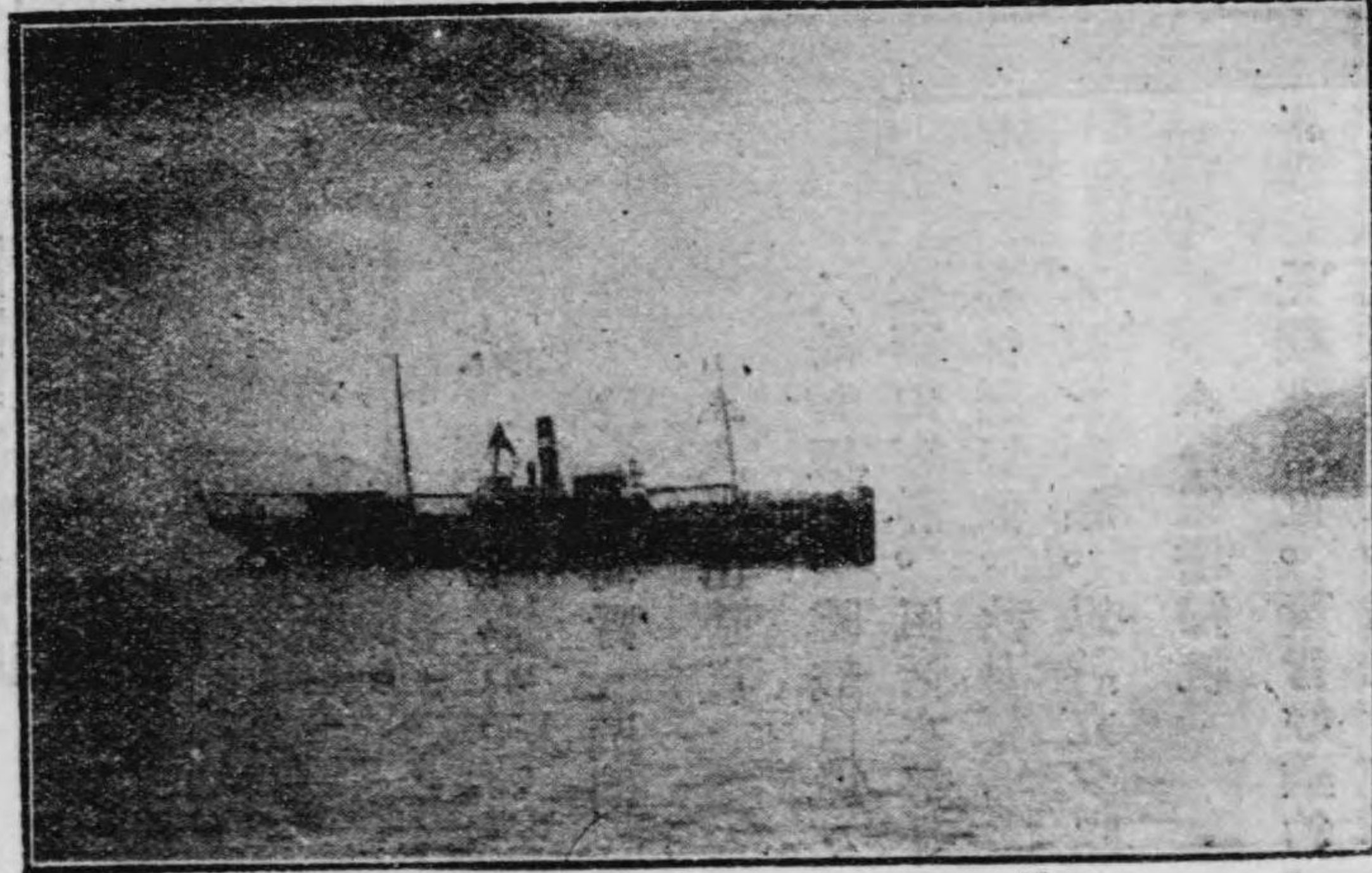
志保町、本町、中町通りは交通最も盛んであつて商家櫛比し商況も亦甚だ活潑である重なる官衙、團体を擧ぐれば郡役所、警察署、區裁判所、稅務署、郵便局、本縣蠶種取締支所、町役場、中學校、郡立高等女學校、大洲銀行、大洲商業銀行、魚市場、公會堂、製糸工場、繭賣買所等に於て尙本縣製糸同業組合本部、喜多郡産牛組合等がある。

▲長濱港

喜多郡唯一の港にして肱川の川口にあり海河の船運頗る利便にして大洲町との交通は最も頻繁なり、青島を控へ鯛、馬刀貝を以て名あり、材木會社、酒造會社、長濱銀行、新谷銀行支店あり、大正二年喜多灘村より伊豫郡下灘、上灘村を経て郡中町に通する海岸道路の開通せると築港落成の爲め地方の發展は日を逐ふてますます盛んなり、住吉公園は櫻花に宜しく夏期は浦邊の海水浴に妙なり大洲町へ四里半中間に加屋町あり。

▲内子町

大洲町と中山町との中間にあり郡内の商業地にして上浮穴郡小田郷地方の物産は多く茲に吸収せらる、半里にして五十崎、半紙



長濱港

に名高き平岡あり。

▲新谷町大

洲町と内子町との間にあり故富豪池田貫兵衛氏の邸宅は新谷小学校と共に縣下無比の壯觀なり
神南山、稻荷山の紅葉、金刀比羅宮を以て名高し。



若宮の青物市



文苑

大洲七勝

河野遊仙

▲八幡山晴嵐

八幡神徳大。曉鼓自鏜々。雲霽山容靜。風恬水勢長。春林懸翠袖。秋樹曬緋裳。不復求癡福。思詩立夕陽。

▲浮龜橋歸帆

長橋架碧流。鰲背好垂釣。此景畫難成。歸帆銜夕照。

▲鷹山暮雪

寒鴉迷薄暮。枯木忽開花。一白鷹山雪。皚皚不見家。

▲臥龍潭夜雨

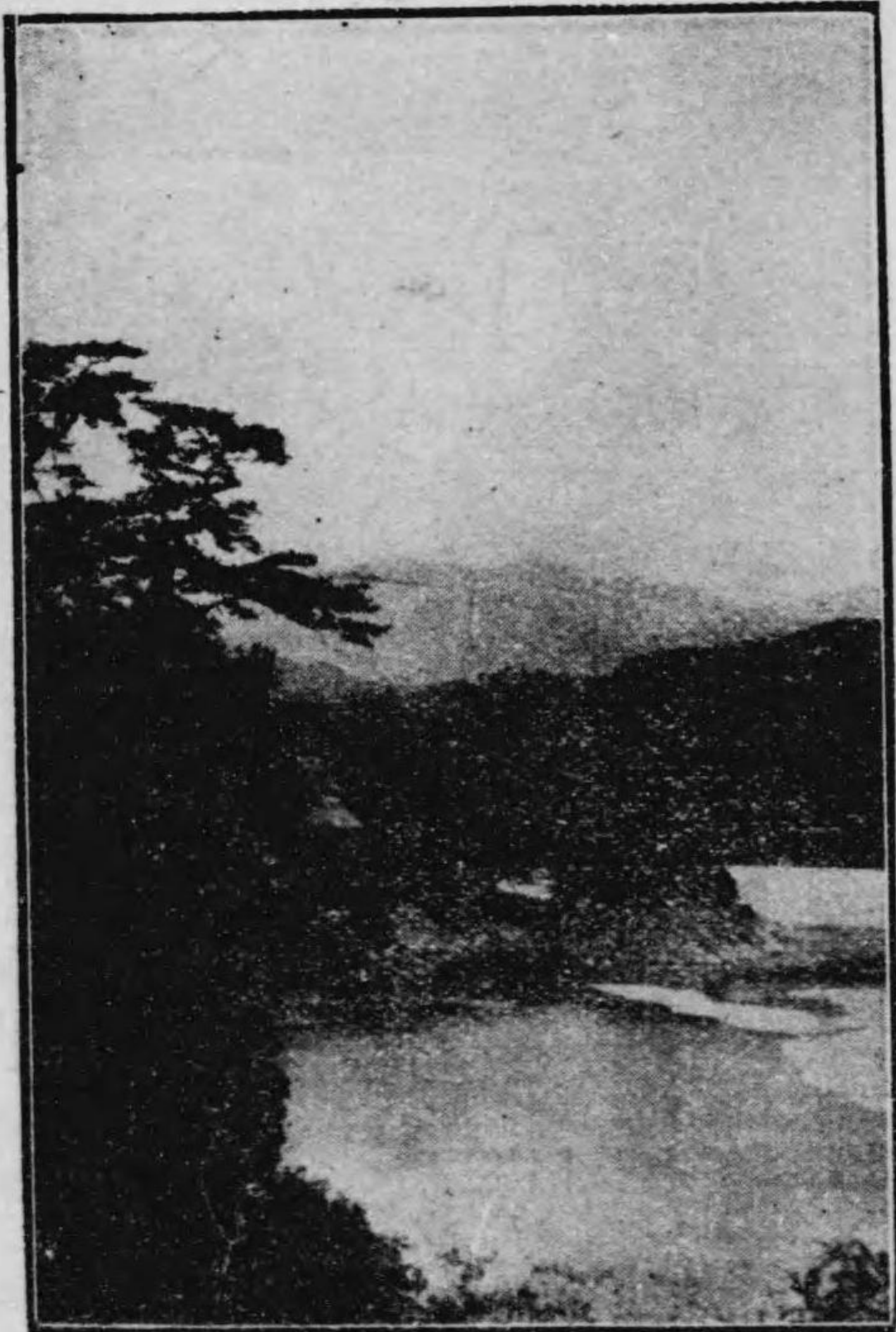
夜暗楊津過客稀。篙師繫艇睜忘機。腥風忽送溟濛雨。知有蛟龍挾水飛。

▲城山夕照

金城倒映臂川流。處處殘基惹客愁。楓葉半黃樵葉紅。笛聲牛影夕陽秋。

▲三笠山秋月

三蓋山頭月一輪。影浮肱川似鎔銀。蟾宮咫尺天如拭。松露滴邊涼氣新。



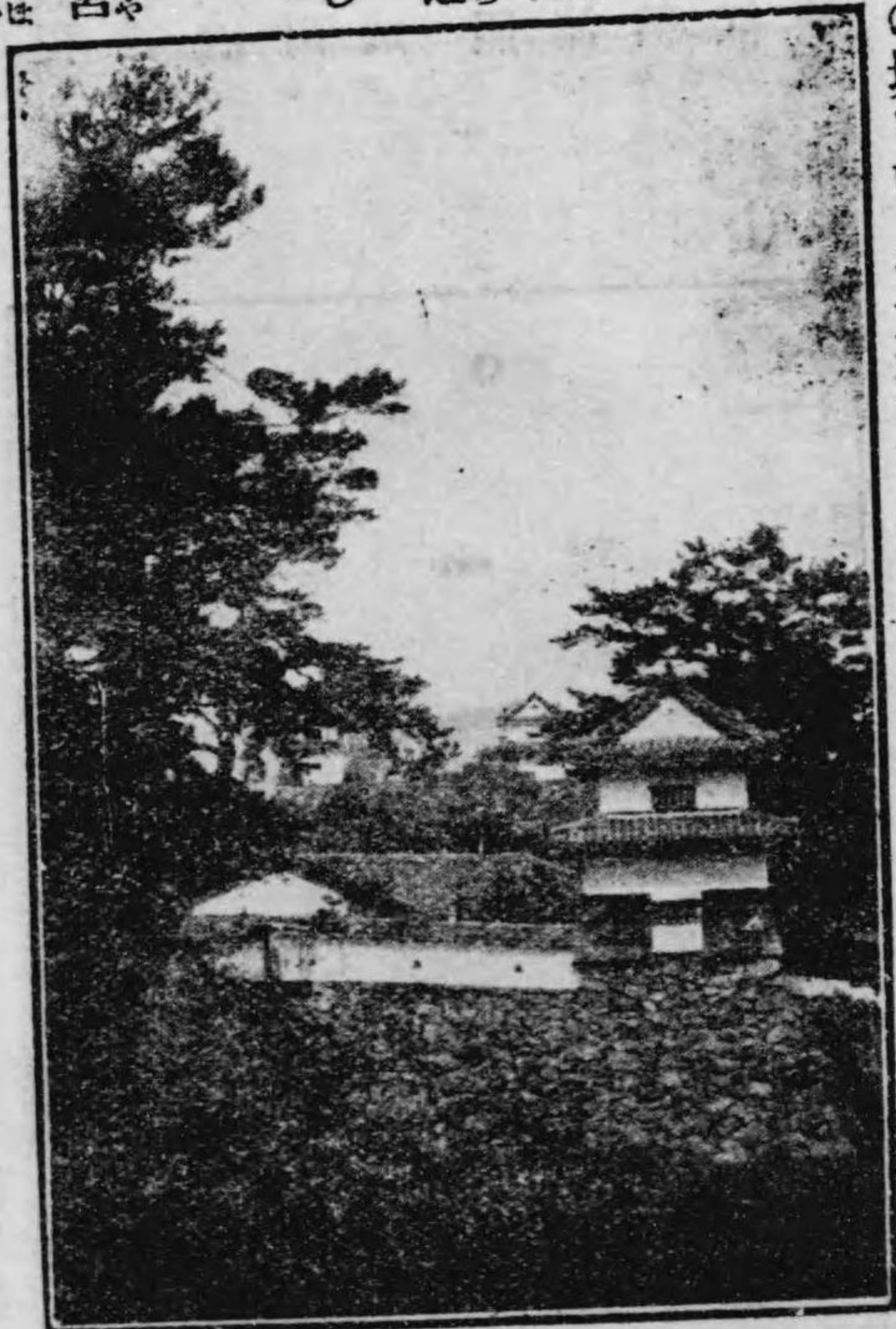
龜山ノ首ヨリ臥龍ヲ望ム

▲如法寺晚鐘

富嶽畫圖中。肱川流脈。山擎佛座青。水洗塵機碧。

楓落欲無蹤。雲深安有迹。忽聞數杵鐘。人士禪門夕。

大洲城の沿革



大洲城は元比志の城といふ又地藏が城の稱あり、創業の年代審ならずと雖源平角之長曾我部氏の兵を借つて大洲城を攻む、城陥り豊綱遁逃し直之に代て大洲城主たり。

大洲城は元比志の城といふ又地藏が城の稱あり、創業の年代審ならずと雖源平角之長曾我部氏の兵を借つて大洲城を攻む、城陥り豊綱遁逃し直之に代て大洲城主たりしと。天正七年宇都宮豊綱の臣大野直天正十三年河野通直小早川氏の援兵を得て來り攻むるに及び直之力盡き遁走して城陥る。



中村本寺

天正十五年戸田民部少輔勝隆大洲城主となる一説には戸田正信とあり、文録四年藤堂和泉守高虎代て城主たり、最初七万石を領せしが後次第に加封せり、慶長十三年脇坂淡路守安治代て城主たり。元和三年脇坂氏封を信州飯田に轉ずるに及ひ加藤左近將監貞泰(大峰院)伯州米子より移封せられ、喜多郡一圓及ひ上浮穴郡小田郷を併せて六万石を領し、泰興、泰義、泰恒、泰温、泰徳、泰武、泰行、泰候、泰濟、泰幹、泰社と累代相傳へて十四世泰秋に及ぶ

加藤家は左大臣魚名の孫、鎮守府將軍利仁の苗裔にして世々美濃に住す、貞泰の父光泰(曹溪院)豊臣秀吉に仕へて功あり、甲州二十四万石に封せられしが、征韓の役、石田三成の毒殺する所となり、封を削られたるものにして、當地にて舊藩主の代を數ふるに普通之を十五代とす。

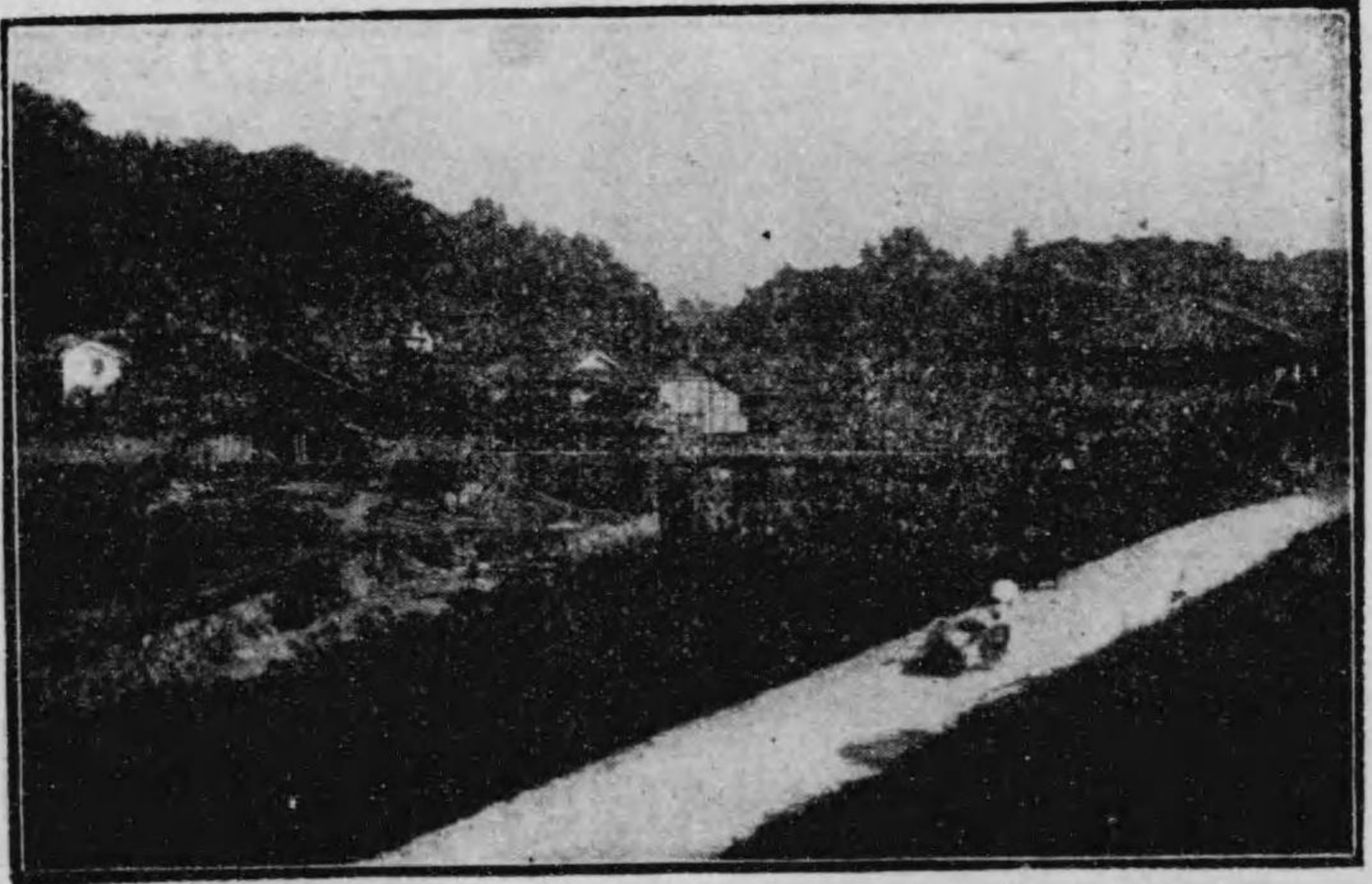
明治二年六月城邑を奉還し加藤泰秋藩知事となる、全四年藩を廢し泰秋免官華族に列せられて東京に移住し大洲城廢墟となる。

大洲城趾	東京	寒川	良骨
○ 大洲町即時	全	人	
○ 大禪寺	全	人	
遠山や秋海棠の窓の前			

洲は縣廳の所在地なりしが全四年十一月大洲縣廢止となり更に宇和島縣に合併せらる。大洲は支廳の所在地となり全五年六月宇和島縣を神山縣と改稱し全六年二月石槌縣と合併せらる。

大洲縣の設置せらるゝや、大洲全年全月石槌縣、神山縣を合して愛媛縣となし縣廳を松山市に置かるゝや、大洲支廳廢せらる。全年十二月全縣を二十二大區に分ち喜多郡は第十六大區として大洲は其第十三小區となりしが全十二年一月大小區廢止せられ、大洲町は柚木と共に一戸長役場に屬し、全二十一年十二月に及び愈町村制の實施と共に大洲町となれり。

是れより先き、明治十七年舊大洲町に屬する椎の森より法華寺に至る宅地は、宅地山林寺院等悉皆を大洲村に編入し、此邊の山地は今の久米村大字大洲に屬することとなり。大洲町を分ちて大洲及柚木の二大字となし町制實施の際、從來の町村を廢し其區劃及名目を其儘大字として存したるものにして、大洲町の大字大洲は即ち從來の大洲町舊藩時代の大洲城下にして専ら商人の居住たる商區と舊士族の住地たりし估券地と稱する部分とより成り、町の主部たり大字柚木は從來の柚木村の中大洲町に接續せる部分を割きて町に屬せしめたるものにして小字を旭町と稱す。



大洲旭町嵩富橋

大 洲 町 一 覽

社會 銀行 工場 物産 各種 團體

大洲商業銀行	河野世襲合名會社	河野合名會社	程野合名會社	製糸工場	糸織工場	生二重糸	羽重	生蠟	實業研究會	尚武會	商同業會	修養會	佛教會	廣南會	教養會	茶話會	
行	社	社	社	一六	一六	圓	圓	圓	會	會	會	會	會	會	會	會	會

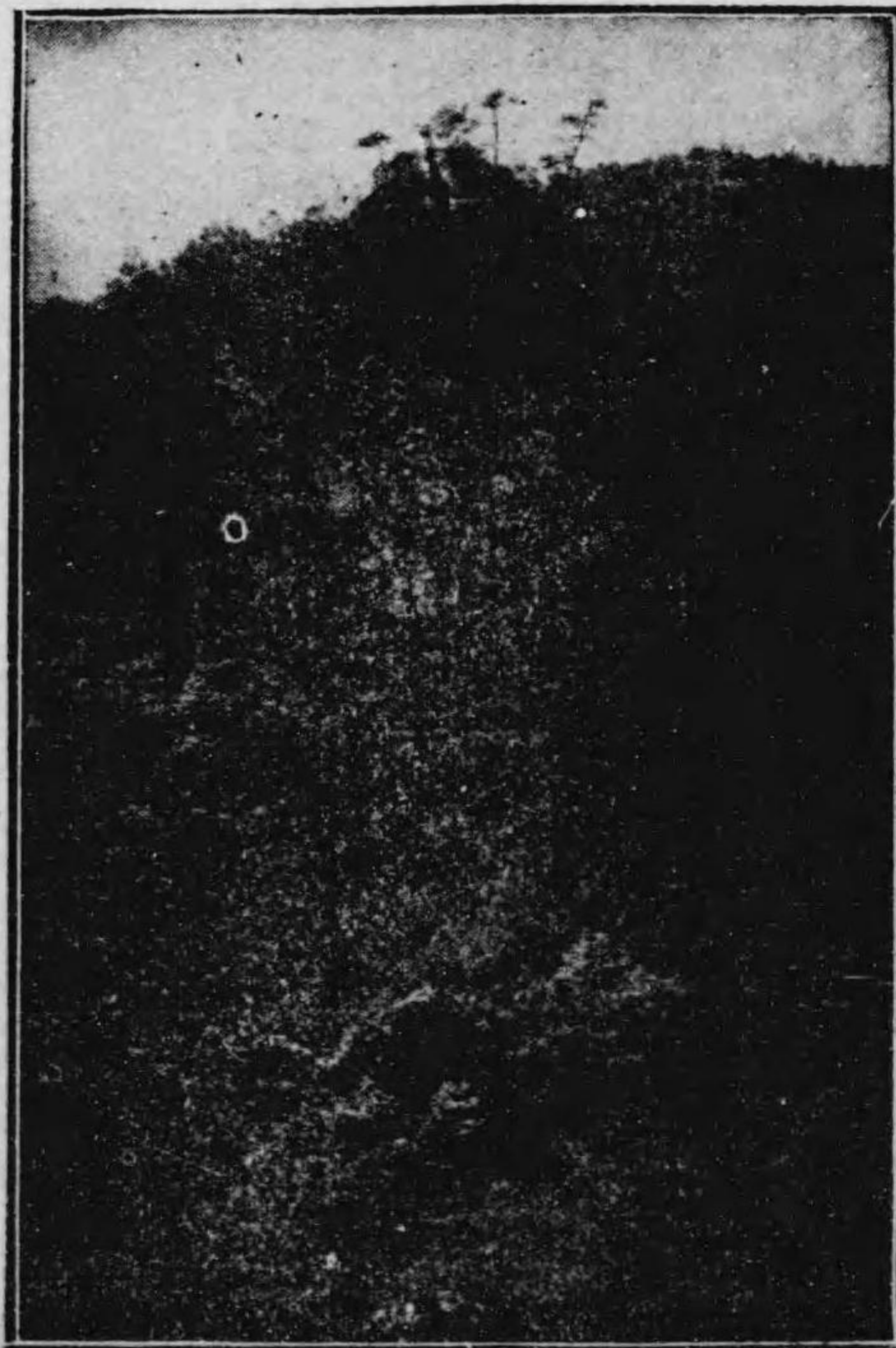
神社 寺院 名所 劇場

太米神	久美神	惠比須神	金比羅神	池田神	曹源寺	清源寺	興明照院	大洲聖教會	基督傳道教會	中江藤樹銅像園	城山朝日園	肱川の朝日園	神樂の淵	臥龍の淵	末廣座
-----	-----	------	------	-----	-----	-----	------	-------	--------	---------	-------	--------	------	------	-----

旅館 料理 置屋

油屋(由井樓)	小西屋	松樂	大正	澤田	東京	いと	水	二宮	は	津	住	井	菊	小	赤	金	久	沖	
亭	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館

喜多郡の首府たる大洲は元大津と書き元和年間今の名に改む、阿部民部の子手兵三千を率ひて大洲に攻入りし時の城主福良通豊を助けし河野通信の爲に破る。文治元年梶原景時の所領となり後宇都宮氏綱全公綱之を領し、元弘元年宇都宮豊房入城して大洲城を築く、天正十五年戸田民部少輔勝隆の所領となり文祿

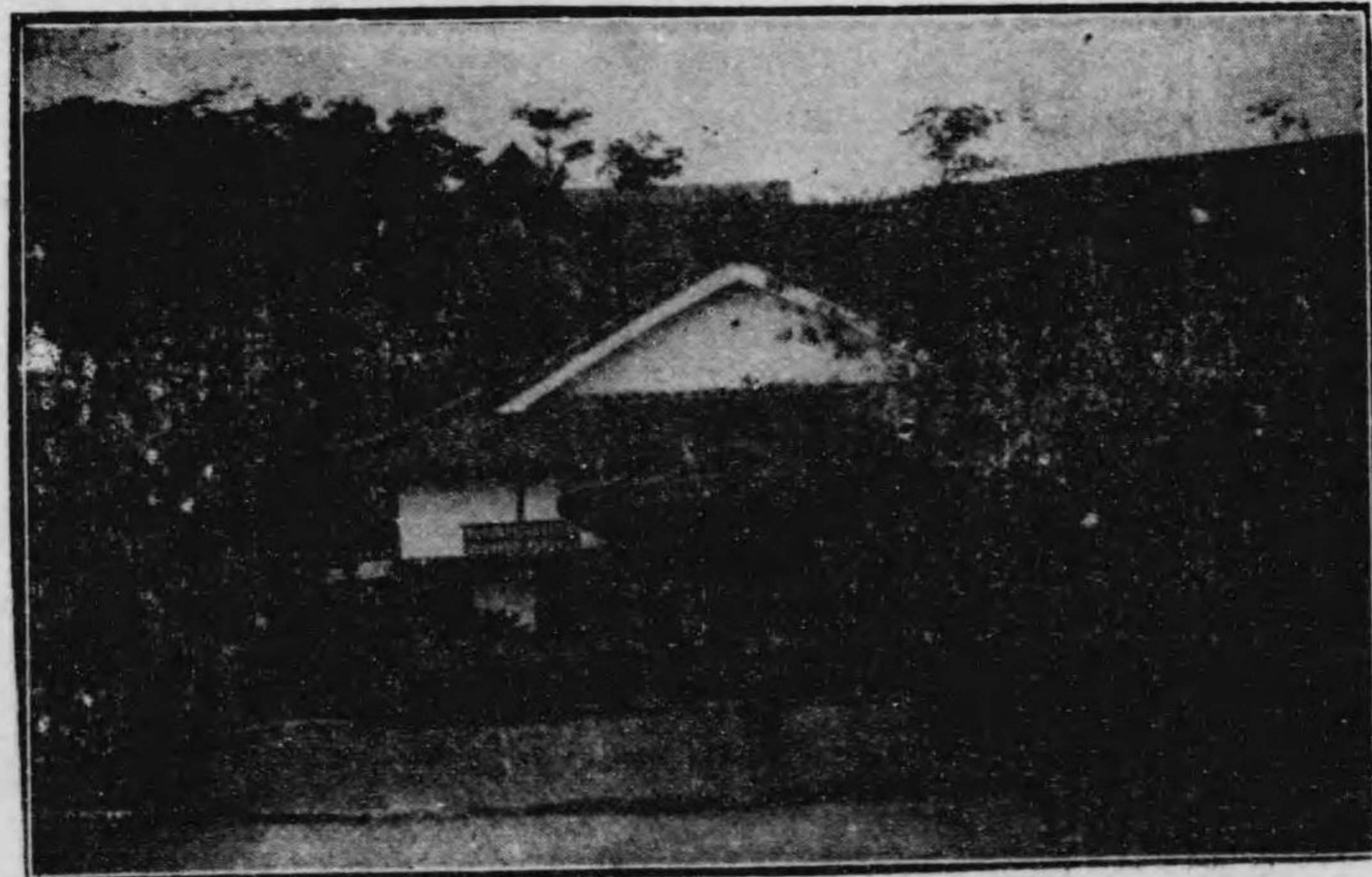


谷一万石を分ち明治二年大洲藩を置き愛媛縣となり今日に至れり、全十二年郡制を布くや陶不藏次郎氏郡長となり次で下井小太郎、八島伯豪、手島正誼、安藤徳明、篠原邦貫、植田延太郎氏を経て現今の倉根是翼氏に至る。

古 い 大 洲

大洲町と密接の關係ある大洲村中村には本
縣原蠶種製造所、共同揚返し場、蠶種冷蔵庫
天理教會所等がある。

伊豫の小京都と呼ばれて居る大洲は、山紫
水明な土地柄丈に山容水態の妙何共謂れ
ぬ面影がある。優々として市街の北畔を繞
つて居る鷹揚追らぬ床しひ眺の脇川は、千
古不滅の碧流を湛へて、瀬となり淵となり
風雅で茶味た大洲をば、更に奥床しゆう美
化して居る。山根一帯の屏風の如うな、蒲
團着て寝たような、全しい峯の谷々には多
くの寺院や佛閣が木立の間に散見して、畫
を其儘の錆びた景色を残して居る。



天 理 教 會 (村 中)

製糸家一覽

- 河野駒次郎
- 程野彦太郎
- 今岡梅三郎
- 河野真太郎
- 増山 玉吉
- 伊藤棟太郎
- 喜多製糸場
- 増田與三郎
- 大川伊三郎
- 井關 純造
- 梶谷 徳富
- 大川好太郎
- 龜岡佐太郎
- 白糸製糸社
- 井上 馨

大洲の製糸

愛媛縣の出色ある國産の中でも随分巾を利かして居る生糸……其
名の高い品質の優良な、横濱の市場でも夙に大威張の随分評判と
信用を博して居る伊豫の生糸は全國の中でも他國に引けを取らな
いドエライ名聲を賣つて居る本縣の生糸は大洲が其大部分を占め
て居る。

大洲の生糸は實に我愛媛縣の誇りであつて、又眞に我帝國の比類
少ない産業精華の花である。海外貿易に於ける櫻花國代表の工化
の神髓である。斯の如き盛んにして光榮ある生糸在るが爲めに小
なる大洲は名を海外に馳す事が出来る。生糸は大洲の取除ける事
の出来ぬ又とない只一つの大切な生命である。

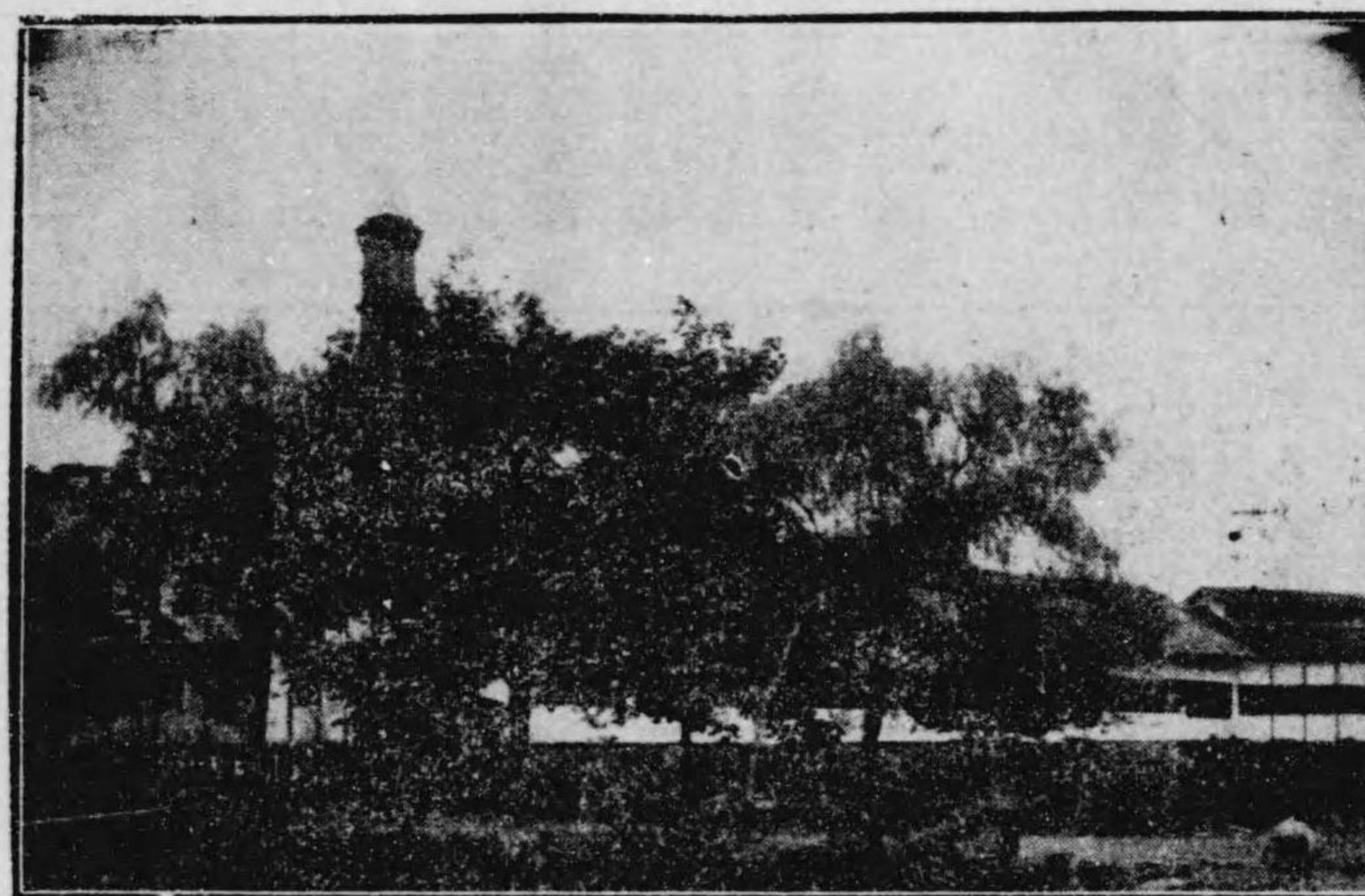
大洲は伊豫の小京都と呼ばるゝ丈け山水の美に秀でた撫梅から、萬事が風流で人の氣質の優しひところ、美人の多い事など能く似て居る西京の『西陣織』に較ぶべき大洲の生糸に就ては、現今大洲町を中心として十五六軒の製糸工場で造り上げて居る生糸の産額は大正元年度の調査では工場の釜数が一千八百個、製造高が二万八千貫、買土價格が實に百五拾萬圓といふ少くない値段に達して居るが更に大正三年度には彼是れ貳百萬圓の糸生を造り上げるのである。

製糸の産額

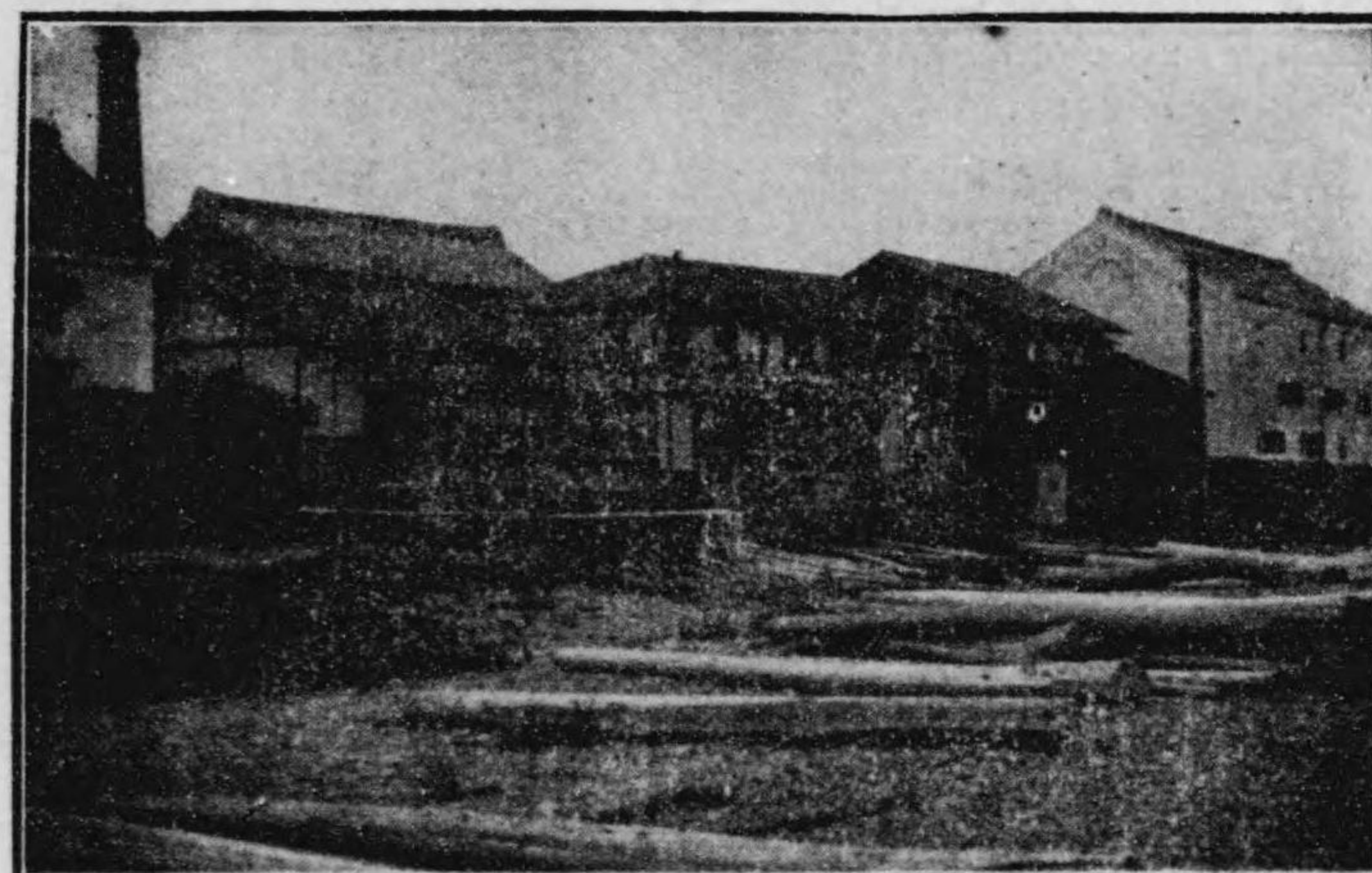


大洲繭賣所

河 野 製 絲 場



程 野 製 絲 場



製 糸 の 沿 革

明治十九年本郡新谷松出角治郎氏が五十人取り機械製糸の經營に着手したのは是れ現今の大洲生糸のズツト昔の端緒であつて、全二十三年頃大洲町の實業家河野喜太郎程野茂三郎氏の兩名が現今の程野館の場所にて共同を以て全しく五十人取り業せり、次で大洲村村上丈夫氏は百人取りの工場を中村二本松に初め續いて加屋に白瀧製糸會社起る、全二十八九年の頃にして全地上田謙吉、西山實彌氏の創業なり。



伊豫の系平 河野真太郎 氏

を經營し 後全廿五年に至り 河野氏は 元監獄署 跡にて敷 地を買入 れ五十人 取りを營

斯界の功勞者にして元老たる大洲町河野真太郎氏は全二十九年頃松田製糸場の建物を買収して之を創業し爾後漸く製糸事業の發展期に入り各所に工場勃興の隆盛を見、次で今岡製糸、喜多製糸、大洲製糸、大川、榊山、山本、瀧川村三友製糸、八多喜齋岡製糸工場等亞で



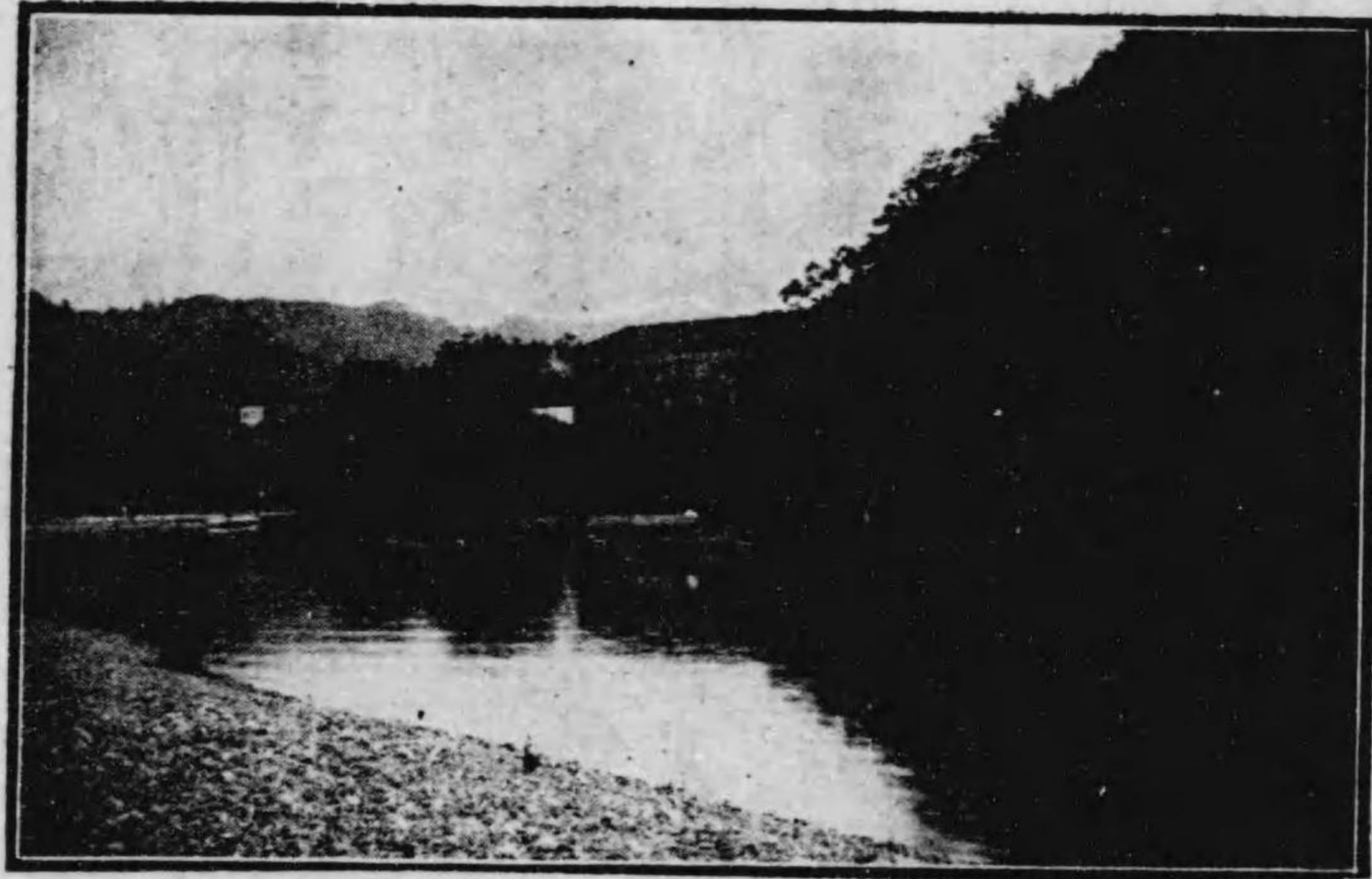
大 洲 常 盤 町

起る夫れより盛衰 變轉定まりなかり しも、地方養蠶界 の進運に伴ひ年々 其産額を増加する と共に、以て今日 の昌盛を見るに至 れり。

不 及

繭荷造る夕忙し

蜻蛉歸去來



舟み涼の川脰

粹な大洲

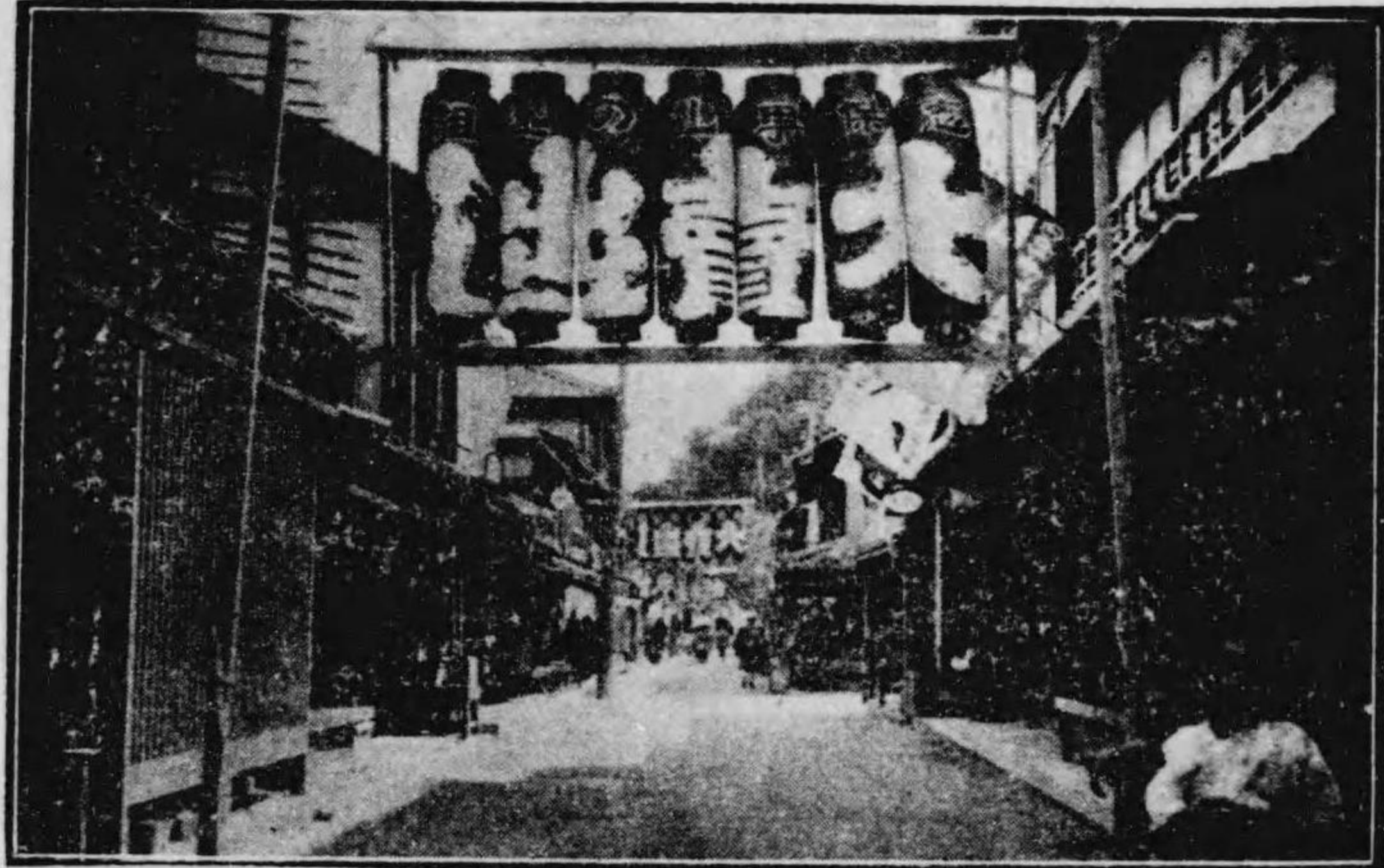
土地柄が既に床し優しひ京都式美を發揮して居る大洲は何とも謂へない山水の美に人の心までが優しい風流な粹な大洲に出来て居る。殊に早生りで自慢な若宮の青物と、名産脰川の香魚といふ縣下一の料理に大切な珍らしひ原料を控へて居るので、大洲の料理と來ると敢て松山に負けないと評判を取つて居るだけ、是なら他縣のお客さんに推し出して、さらしく耻かしくない品物が御注文に應じて何なり共運び出される、料理に續いて大洲の菓子には是れ亦土地で自慢な名物丈けに随分耻かしくない品物が出來揚る。

大洲名所

『伊豫で名代の小京都』郡の名さへも喜多といふ、月に商賣繁昌の生糸で自慢の大洲町……名所名物數へたなら……數へ切れぬい其中に……四時の遊び場旅人の、鬱や勞れを晴らすなる、眺も厭かぬ面影は、山紫に水清き、春夏秋の脰川や香魚狩り納涼面白く、さては月見の屋形船、漕ぎ出す夕の『柿の木瀬』……歸るは白帆二ツ三ツ……橋高き家近く、金波銀波は登り來る、四面の景色の有様は、畫にも書かれぬ此川の、誇りの眺望麗はし……さて又町の西側に此處も名所の一つなる、城山高き公園地、元の城趾に上りなば、雙眸眼下指呼の裡、舊



大洲公會堂



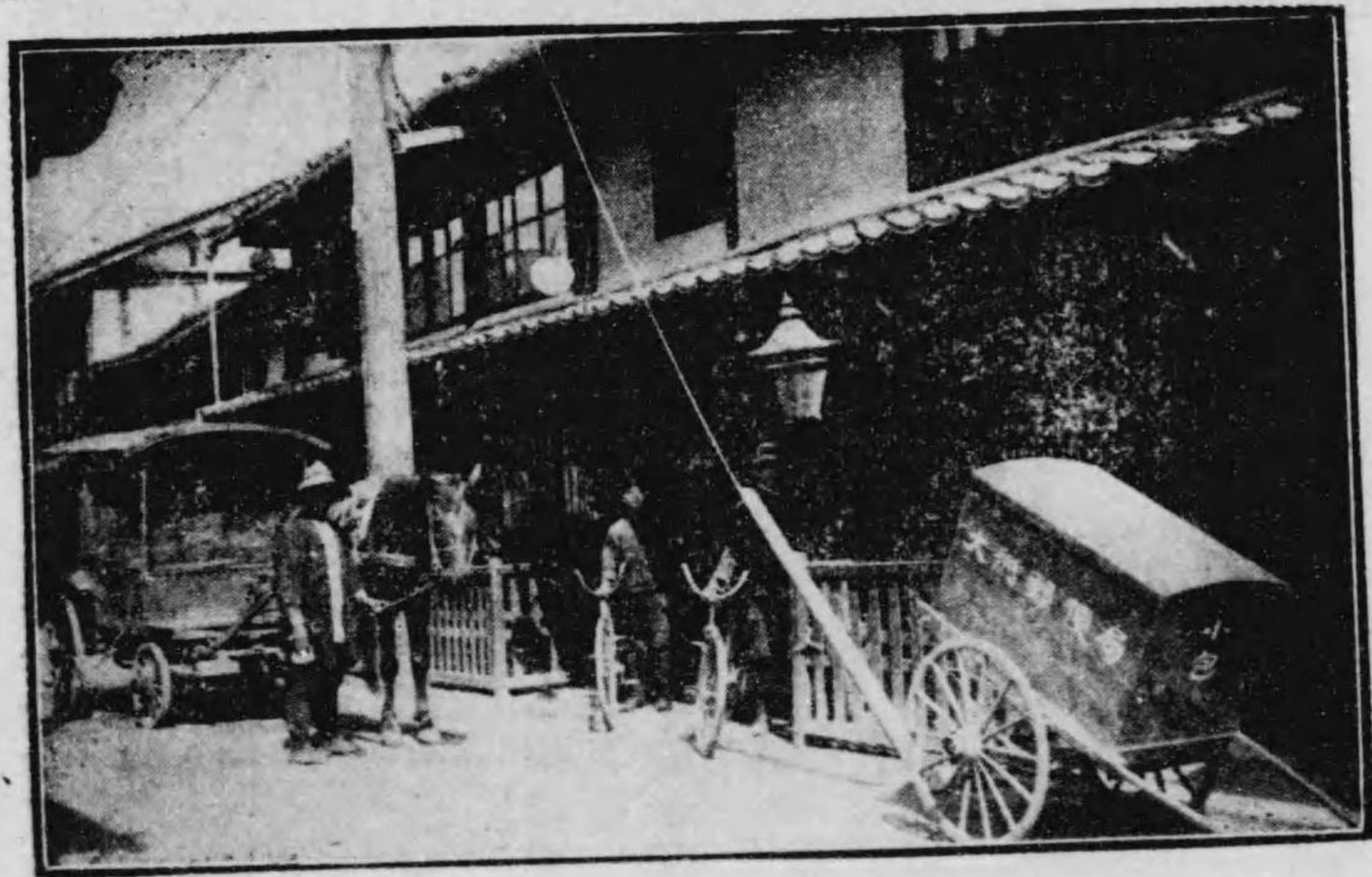
大洲志保町通

藩公の御城下は、一目千里の春の風、豊け
 き御代の太平に、彌や榮は行く芽出度さも
 祝ふか園の此處彼處、桃林數多立ら列び、
 優しく笑める粧ひは、藤樹先生を祀りたる
 記念銅像の片邊り、「遺愛の藤」と諸共に、
 四五月空の眺めなり……少し市街を離る
 れば臥龍の景色富士山、孰れ劣らぬ名所に
 て……来る旅人が故里へ、土地の土産と尋
 ぬれば、大洲名物元祖どと遠く近くに評判
 は、七福堂の練羊羹、藤樹煎餅と名も高し
 ……伊豫の西京と呼ばれる丈け、氣立優し
 い婀娜姿、持て行けるか行けないか……一
 寸此點らが考へなれど、是も土地での名物
 の一つ『大洲美人』は奈何で御座る……』

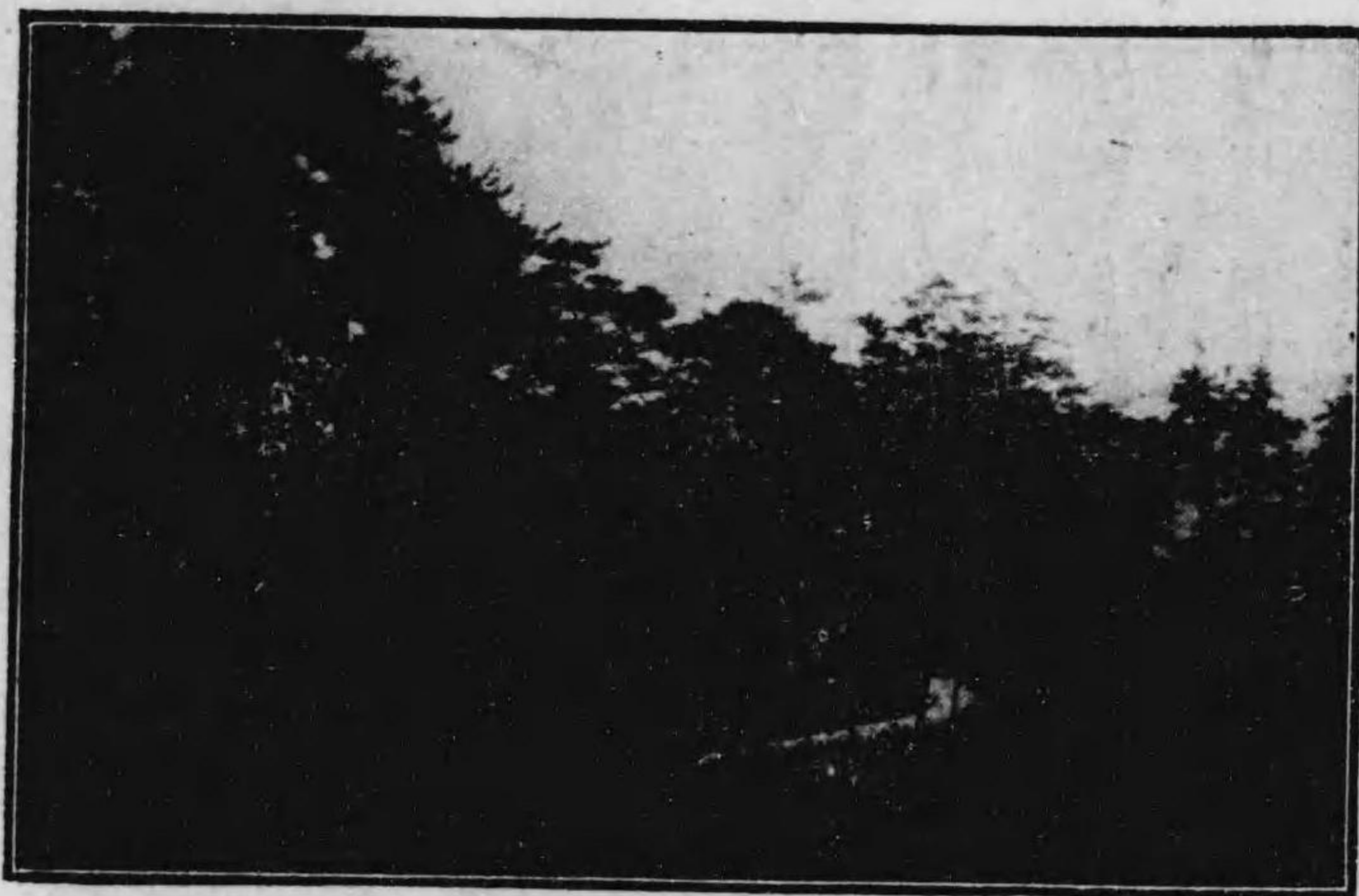


大洲郵便局

明治五年郡内有志總代三瀬半兵衛
 氏等の請願により郡内に一個處の
 驛遞取扱所なるもの開設せられ
 しに始まり、時の主任は土谷某に
 して傍ら荷物問屋を營み、毎日十
 四、五通の封書を驛夫が配達せし



大洲郵便局
 は全十年電
 信分局設置
 せられ河合
 技手局長と
 して來任し
 三名の配達
 夫が毎日四
 五通の電報



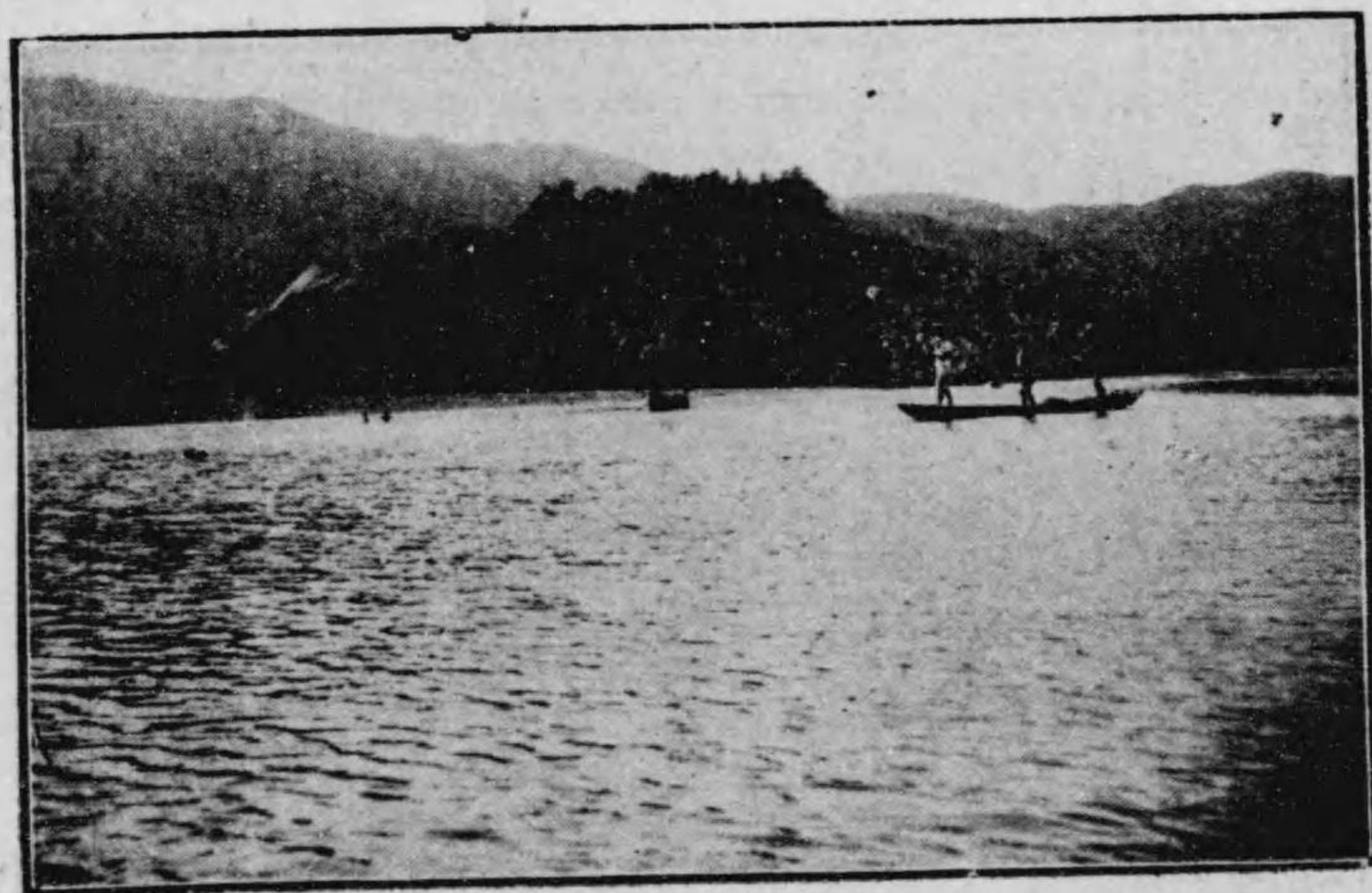
松 並 の 坂 鳥

を取扱ふ位なりしが、全十五年隣越取扱所
は郵便局と改稱せられ、局長に細川久吉郎
氏任命せらる、二等電信局は全廿三年四月郵
便局と合併し大洲郵便局と改稱せり。現局長
は細川清三郎氏にして事務員男女十七名遞送
集配人二十四名なり、全四十四年十二月特設
電話第一期を開通し、市外通話區域松山局以
南十二箇局に及び、目下特設電話加入者合計
百六名あり、今の廳舎は全四十二年民屋を改
築せしものなり

秋晴れや松間高きに雲の脚 不 及

肱川趣味

喜多郡天與の特産物とも謂ふべき延長十有
八里に亙つて居る肱川は東宇和郡並に本郡
樞要の中央を繞つて硫黄灘遠く長濱港に注
いで居るのであるから、其舟筏の便利な事
亦縣下一であるが、風流の眼から觀た肱川
は又、格別の趣味がある、肱川の面白味は
到る所に可ならざるなく、四季を通じては
溪流に枝交う楓葉に宜しく、山の端に懸る
薄、刈萱の眺めに適く、或は歸る帆掛船に
浮世忘れて香魚狩りに、或は又た、昔の影
を其儘に暢氣で床しひ鼻歌ものゝ筏流しに
納涼と遊び半分の紅提灯の屋形船に一とし
て趣味のないものはない……



(網投) 狩 鮎 の 川 肱

中江藤樹

先生諱は原、通稱は與右衛門黙軒と號す、父吉次は近江の人にして慶長十三年全國青柳寺小川に生る、祖父吉良加藤貞泰侯に米子に仕へて百五十石を食む、甫めて十一大學を讀み聖人を理想とす、吉良の大洲に歸任するや先生ついで大洲に入り吉良歿して食祿百石を賜ふ寛永九年泰興侯の弟直泰新谷に分制せらるゝや先生自ら新谷に移る全十一年歸省を請ふて許されず斷然官を辭す年二十七、邸跡は大洲中學校にあり四十一にして逝く、明治四十年正四位を贈らる全四十二年先生の銅像を城山公園に立つ

和洋御菓子商

大洲名物煉羊羹

登錄商標 藤樹煎餅

名代カステーラ

伊豫大洲町公園前

板倉龜五郎 本店

野田榮町 板倉龜五郎 支店

矢野玄道

先生は文政六年喜多郡久米村字阿藏に生る幼より學を好み出て平田篤胤の門に入り又古賀侗庵に從學せり王政維新の際玉松操等と朝廷に建白書を出せり、玉松は野々口隆正の門人にして岩倉公の信認を受け明治の維新は神武の創業に則るべき旨建議せし人なり玄道亦間接に功ありといふ、明治元年神祇官に徵され全三年大學中博士となり、後宮内省に入り圖書寮御用係となりしが全十九年非職となり郷里に歸り専心母の孝養と著述に従事し明治二十年五月六十五歳にして卒

矢野玄道先生の碑 (久米村)



す、著者百十部七百餘巻に達せり孝明天皇陛下より拜領の金瓶、茶碗、皿等數種は全家の寶物として秘藏せらる、先生の石碑

は阿藏舊邸宅の上におり後裔には文學士矢野太郎氏東京に在り、其弟眞杖氏は先生の後を繼ぎて農業に従事せり、大正二年愛媛協育協會は先生の其功勞を表彰せり

目 一 郡 多 喜

物 珍 物 名

大洲の生木系
長濱の材木
中宮の養蜂
若宮の青物
青嶋の紙
平嶋の半紙
満穂の葡萄
鹿野の樟脳
大谷の産物
新谷の殖林

蹟 舊 所 名

大洲臥龍之淵
十夜ケ橋太師
金山白石寺
加屋の白瀧
櫛生沖浦觀音
小鏡の温泉
新谷の學校園
柚木の如法寺
大洲城山公園
阿藏矢野翁碑

人 名 士 名

中江藤樹先生
矢野玄道先生
故重岡正親
故有友大洲
政尾吉大洲
下井太郎
故池田貫兵衛
俳人寒川鼠骨
畫家寒川八郎
井上中要(松山)
池田龍一(菅田)

大洲町より里程表

新谷町 一里半
長濱町 四里半
内子町 四里半
八幡町 四里半
東多田 四里半
卯之町 六里半
松山市 十三里
宇和島 十三里

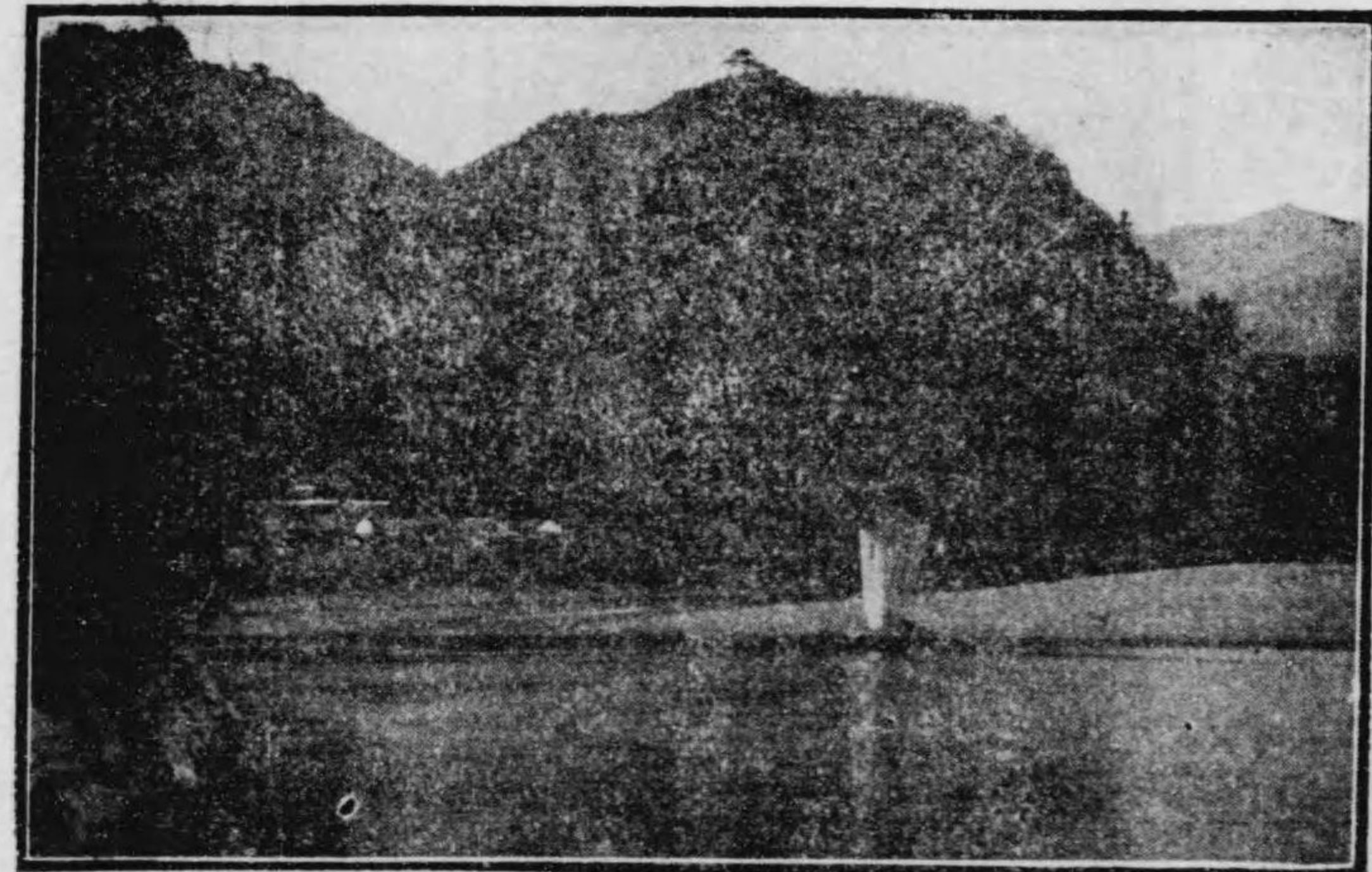
俗 歌

大洲出て中村、若宮突合せ、春賀、八多喜の祇園さん、加屋の白瀧見物し……長濱上りじやないかいな……

大洲のいろく
大洲で口に這入る物の名物は風流料理に菓子いろ、早生り菓子の若宮物、賑やかなのが少名さんの縁日に八幡祭、婦人の豪華は學者はだの、中野光子女史は小西テヒ女將と虎田マサ子……

肱 川 名 所

川裾の長濱港では馬刀貝や珍風俗の青嶋の鯛で名高い、長濱の直ぐ川向ひの櫛生村には國寶で評判な沖浦觀音がある、其の隣りの柴村では強盗龜で名を賣つた瑞林寺、上須戒村には弘法大師に縁故の有名な金山出石寺がある再び川を渡つて本街道に出ると瀧川村では加屋の白瀧、白瀧製糸、栗津村へ來ると八多喜の祇園神社に公園、龜岡製糸工場、ズット突合を通り越しては青物



本場の若宮の野菜、全しく大洲村では中村の下井養蜂工場、更に肱川鉄橋を越へて大洲町には城山に製糸工場、臥龍に如法寺など澤山ある。不及帆の影に置く山影や涼味薄く

大 洲 の 四 季

▲春 は花、夫れ公園の桃、櫻……酒の筵に歌舞の宴、心陽氣に浮き立ちつ遠く酔眼眺むれば、霞柳曳く神南山、手に取る如うな富士山、下は見降ろす肱川の清い流に船筏書にも書けまい景色なり。

▲夏 は舟、香魚狩り、納涼み一として趣味ならぬはなきも、暑さ忘れた吹く川風の夕暮に紅提灯の屋形船、出して流れを上下しつゝ半夜の納涼に外で見ぬ水上の趣味を研究するには、帯の如うにうねりくねりと繞つて居る肱川こそ面白し……コリヤ素敵結構無類じやと来る旅人は賞らめて居る。

▲秋 は川、兩岸到る處の色、錦繡の紅葉に能く、如法寺山の月影や、此上もない鮮かさに水に眠りて小波の金波銀波を漂はす、秋の大洲の麗はしさ、是なら縣下にたんと有るまい。

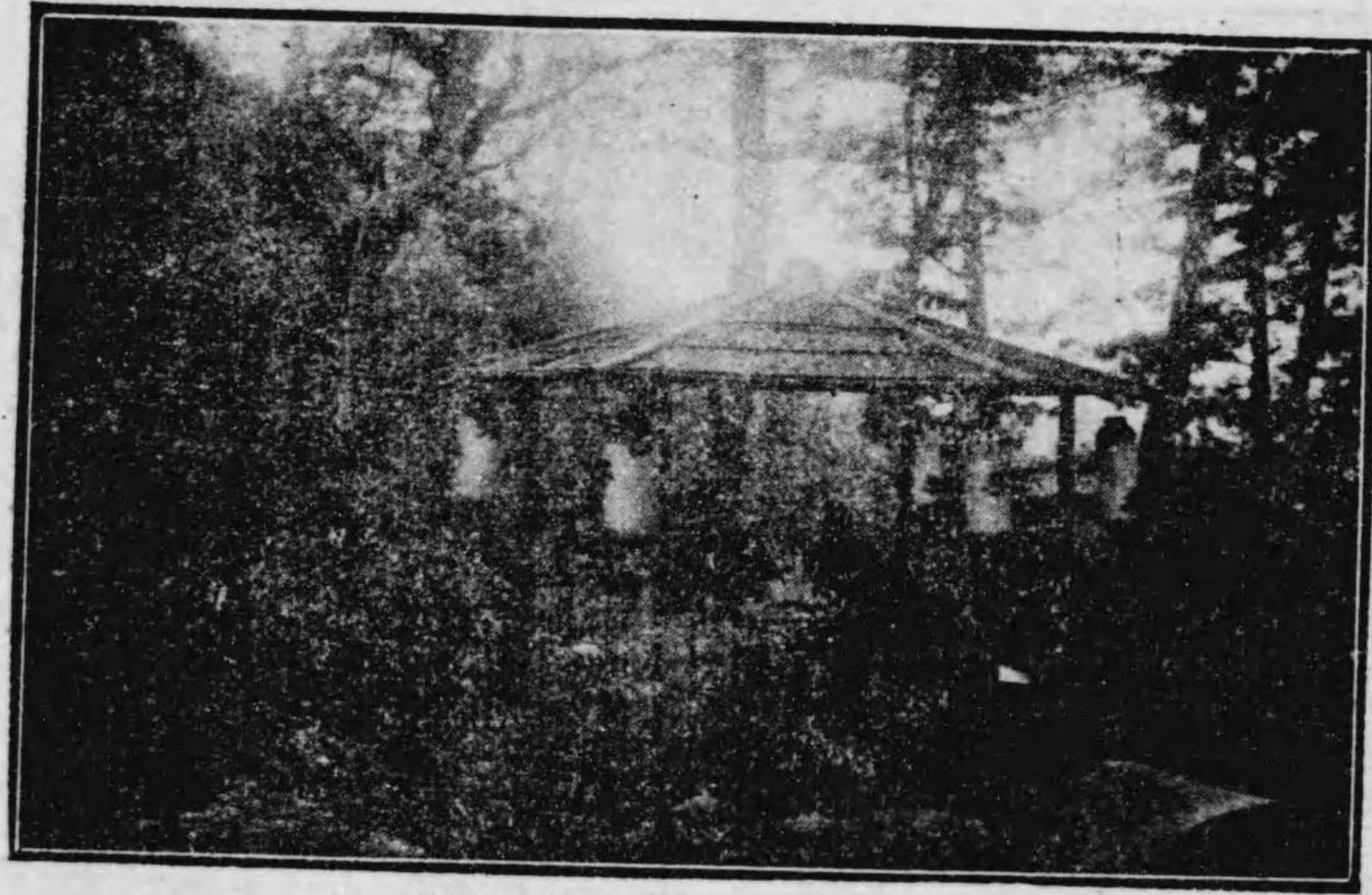
▲冬 は雪、高山、渡し場不可ならざるも、龜山より觀た積む銀世界の臥龍の景色、風流好む閑人の嘆賞措かぬ絶勝にして淵には沈む如法寺の鐘に一瓢を傾くれば雅、美姫を具して陽氣な雪見酒と洒落たら俗な中での風流なり

● 電話六十四番

大洲中町二丁目古森舶來雜貨店といふ夏冬帽子に重きを置いた頗るハイカラな洋品店がある最新流行の色々な品物を最も安價に勉強に賣捌いて居る此の家の主人公といふは、元陸軍出の歩兵少尉で日露戦争退後大洲中學校の体操教師として勤務中、三年前から辭職をして此店を開業したのであるが、武骨一遍の主人公に比して、愛嬌たつぶりの妻君の抜目ない商賣振りに、家運はますます繁昌をして四方の顧客が店頭常に市をなして居る盛況なので來年の四月には一層業務擴張の爲め全町一丁目は肱川橋通り南詰の角に移轉をして顧客の貴需に應ずる由、電話は六十四番へ……



野 田 八 幡 神 社



富士山如法寺

(南久米村)

本縣の名刹にして其名遠近に聞へたり大洲町より數町南久米村柚木にあり、
 明曆及万治九年建設にして堂塔は佛殿、本堂、書院及庫裡、輪藏、鐘樓堂、什物藏、穀倉庫、山門、觀音堂、毘沙門堂、奥旨軒、鎮守堂、地藏堂あり、右の内殿は寛文十年の建築にして悉く良材巨木を撰び彫刻眞に結構にして善美を盡せり、
 當寺の寶物は又頗る著名のものにして即ち兆殿司作達摩畫幅、探幽の摩達雪舟の十六羅漢光淋の達摩畫幅、若宮養徳の十六羅漢、加藤

泰恒公の涅槃畫像、養徳の文珠菩薩畫像盤珪禪師の一字三拜の苦作に成る血書觀音經及び血書の般若心經全しく全師の一刀三拜の作たる白檀木彫刻の觀世音像等あり
 全九年加藤泰興侯の創設に係り當時の大徳盤珪和尚を請し開山となし侯又禪學の研鑽深く鉗鉋を烹くること多事頗る蘊奥を究む當時遠近の禪風輝を増し佛徳隆盛なりしといふ、本尊は全師作の聖觀音總金箔の坐像なり

盤珪禪師

師は當時海内第一の巨匠と仰がれ不生一格の禪を主張したる卓見家にして其徳化の盛大な



園庭の寺法如

る事天聰
に達し、
靈元天皇
より佛智
弘濟禪師
の號を賜
はり、死
後櫻町天
皇より大
法正眼國
師の諡を
勅贈せら
る

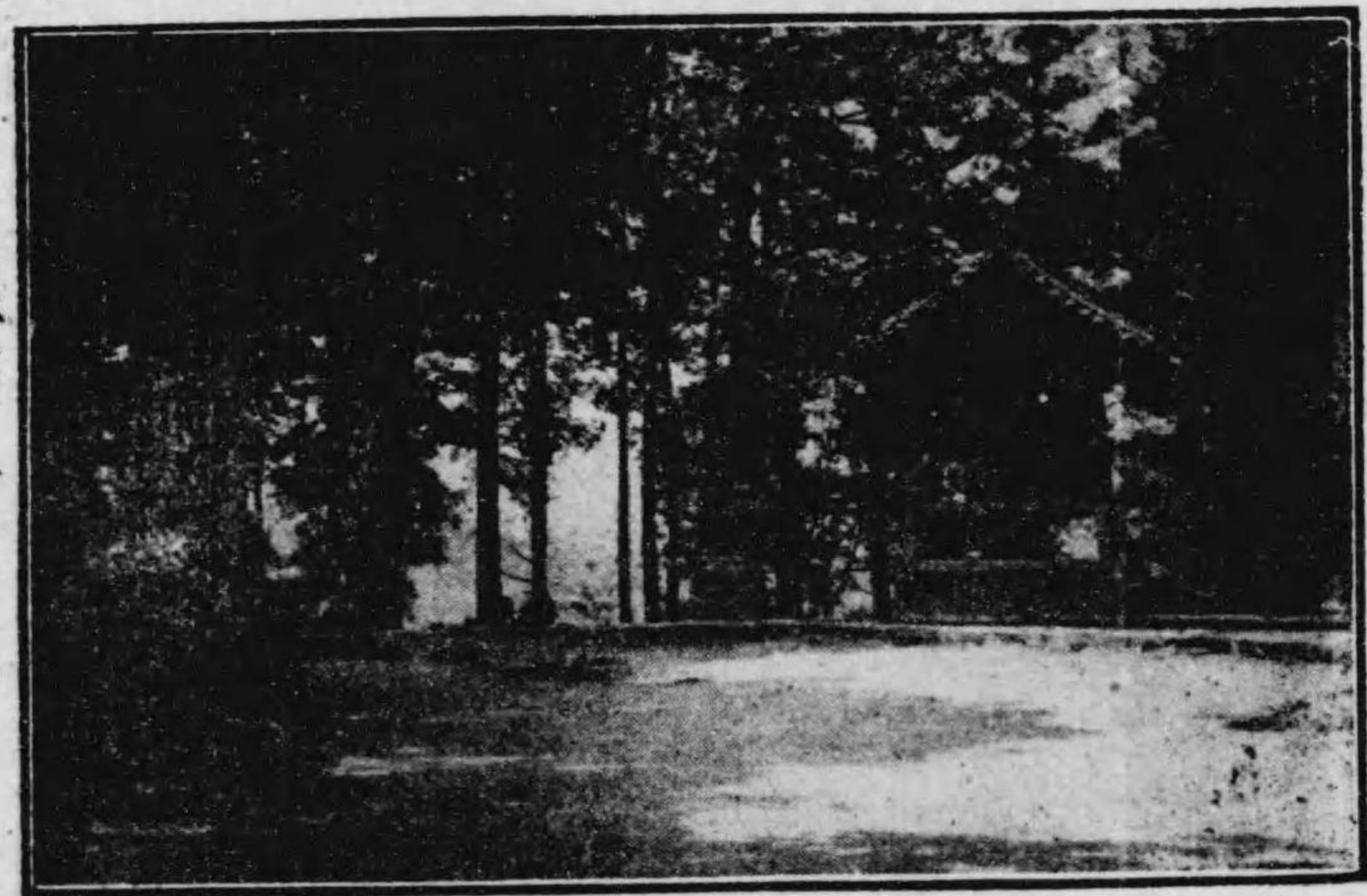


築瀨山少名彦名神社

築瀨神社

菅田村大字大竹字築瀨にあり大洲
町より肱川の右岸に沿ひ山路十餘
町の築瀨山に鎮座す、草藥の神た
りし少名彦命を奉祀するを以て療
藥の神として靈驗著しく殊に毎
年二月毎の巳の日の祭日には遠近
の賓客山に集ひて、群集の雜沓謂
ふべからず、殊に其參詣客の通路
に當れる大洲町は此の社のた蔭を
蒙りて祭日毎にその繁昌は一方な
らず、

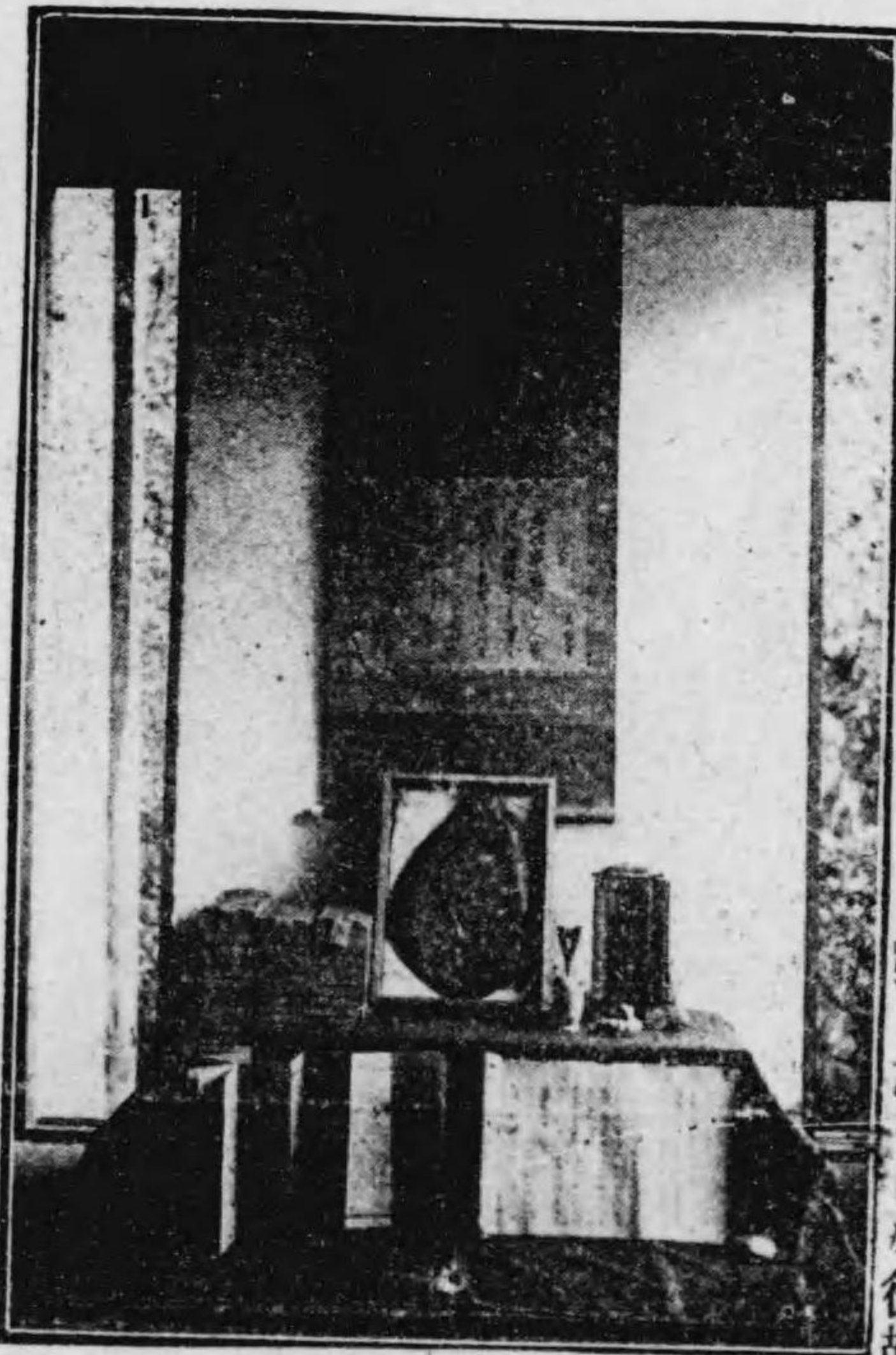
此の菅田村は往古過陀村と書し
太古の世大己貴命、少名彦命の
二神天下を巡狩の頃粟の國より
狹貫狹長の國を経て神野小子
の國より訓見國則此地に來り駐
驛有て庶民を集め士農工商の道
を誨へし處なり、少名彦命疾病
の爲此里に薨去あり、甲人夜奈
世山に埋めし由、此處俗に御童
谷一名御陵山又不入山とも呼ぶ
又此地には神名山少石山、龍の
宮天神冠岩命世外等種々
神靈多き所なり



如法寺の鐘樓

万年山
大禪寺
(久米村)
此の寺は今
より六百四
十年前、
後宇多天皇
の建治元年
伊豫の國主
河野通廣公
の建立に係
り、七堂伽
藍悉く備

はり頗る廣大なものにて、今の大洲町の半ばは其境内にて榊形の河岸に総門あり、門柱下の礎石方形に組立てられしを以て、世俗之を『榊形』と呼び遂に地名となす。天正年間小早川隆景此寺に陣所を設けたる事あり、万年山大善禪寺と號したりしが後故ありて今の名に改む。戰國時代頗る兵燹に罹りさすがに廣大なりし境内も終に今日の有様となれり。當時の寶物には

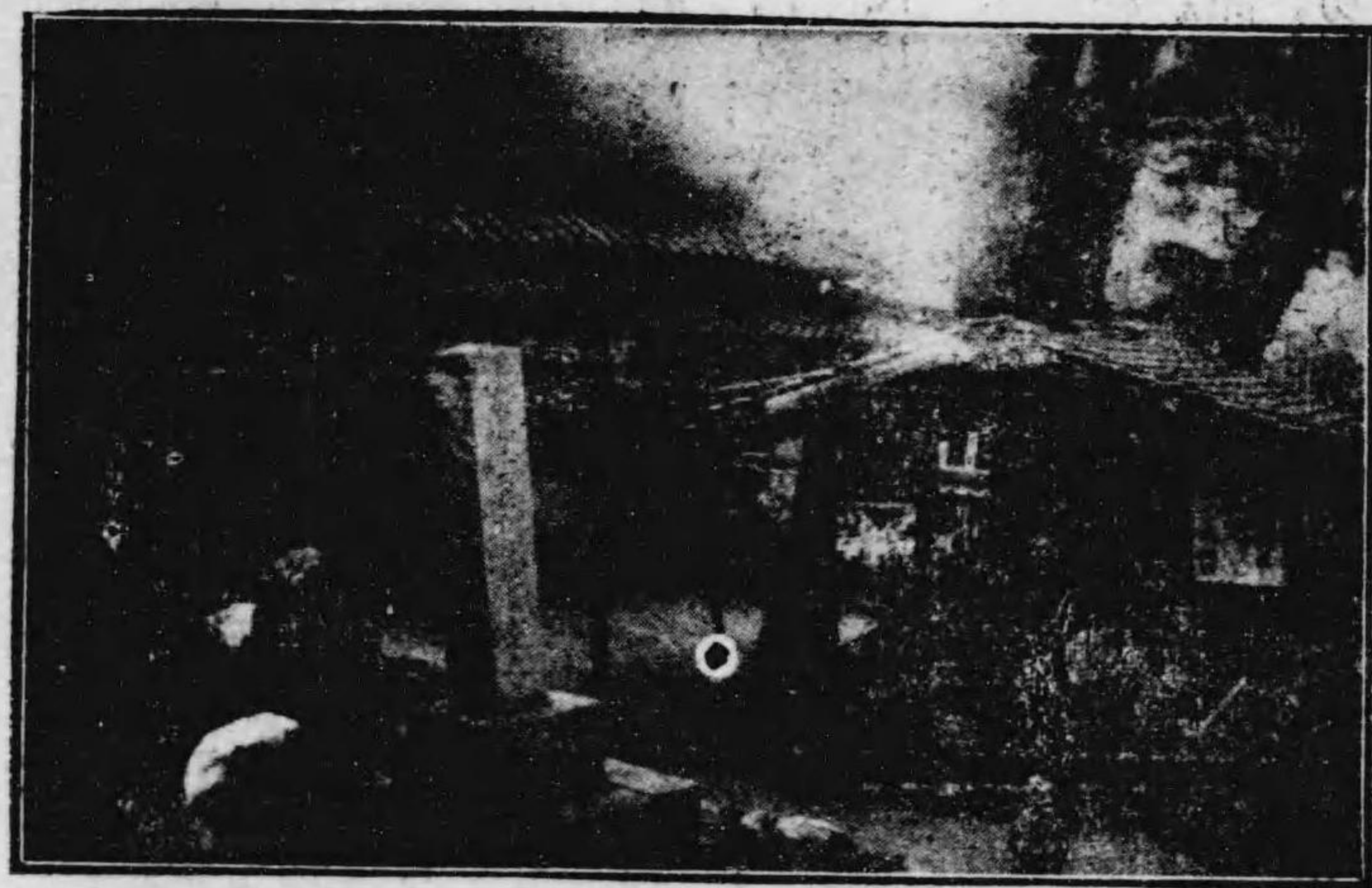


大禪寺の寶物

▲繪旨三軸 ▲大佛師定朝作聖觀世音木像(一千二百年前) ▲宇都宮朝綱の古鑑 ▲小早川隆景の制札 ▲石刻觀世音澁谷只右衛門刻 ▲玄尚和尚筆寫の 大般若經六百卷等

下井氏の養蜂巢礎

全國養蜂界の成功者として、また巢礎製造の發明者として我が本縣の誇りとなすべき『下井巢礎』を以て其名は邦の内外に知られて居る、大洲村中村下井小太郎氏は實に本郡養蜂界の恩人として既に世人に識られた人で兎も角にも喜多郡屈指の人物である。氏は永く官界に有て前喜多郡長として令聞あり。辭して身を養蠶製紙の業に投し成績頗る觀るべきものが多かつた、本郡の繭糸界が今日の隆盛を見るに至つたのは、下井氏の功績蓋し少々ではないのである。氏は養蠶業に従事するの傍ら、早く養蜂等の有利なるを認め、全國で未だ斯業の幼稚なる時代に於て専ら之が改良を計り頗る苦心奮闘の結果十數年間の切磋經營の業を全しからず、終に今日の他人の眞似の出來なき我國での模範巢礎の稱ある、優に海外輸入品に對抗すべき美事なる巢礎を供給するに至り以て今日の聲價を博するに至りし氏の功蹟は多大である。下井氏の今日あるは又其内助の功ある夫人園子女史の力や蓋し没することが出來ないのである。



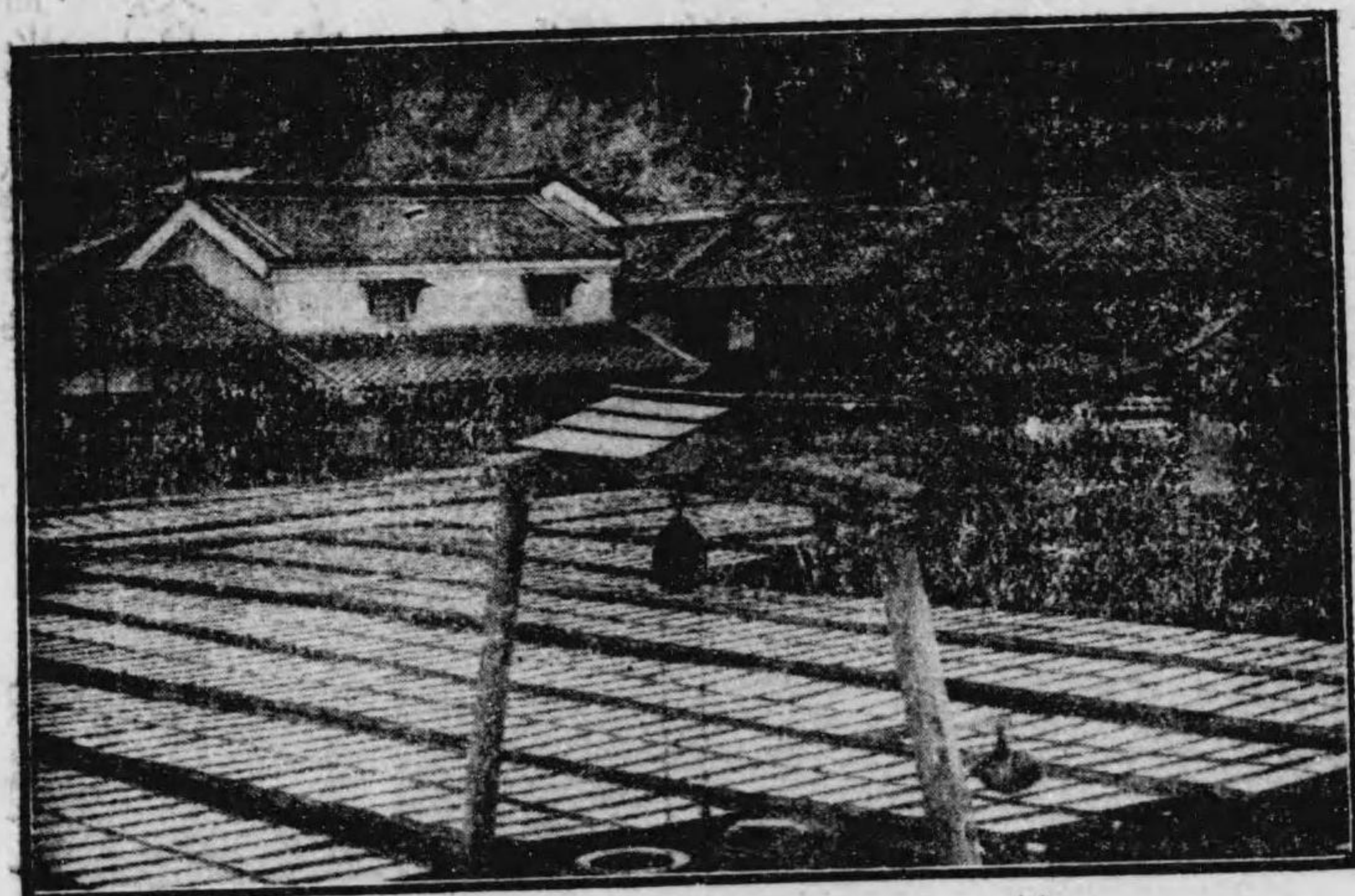
札掛大掛師 (村米久)

菅田の養蠶

大洲の製糸、平岡の和紙、大瀬の銅と共に有名なる菅田村の養蠶は慥に喜多郡名物の一つとして誇るに足るべき品物である。本村の人口が三千八百、全体の戸数が七百五十戸の中で養蠶に従事の戸数は實に其大部を占めて六百戸に達して居る。

一年の生繭收穫が二千石、此價格は九万五千圓を算す、桑園反別は百二十町歩、大きな養蠶家は一時に五六十人の雇人を使役す本村養蠶界の功勞者には故大野管次郎氏、有友正親氏を推さねばならぬ、當地の蠶種

業には 立花館 愛農館 達磨館 製糸工 場には 井關純 造氏の 經營が ある。



村上氏蠶晒工場

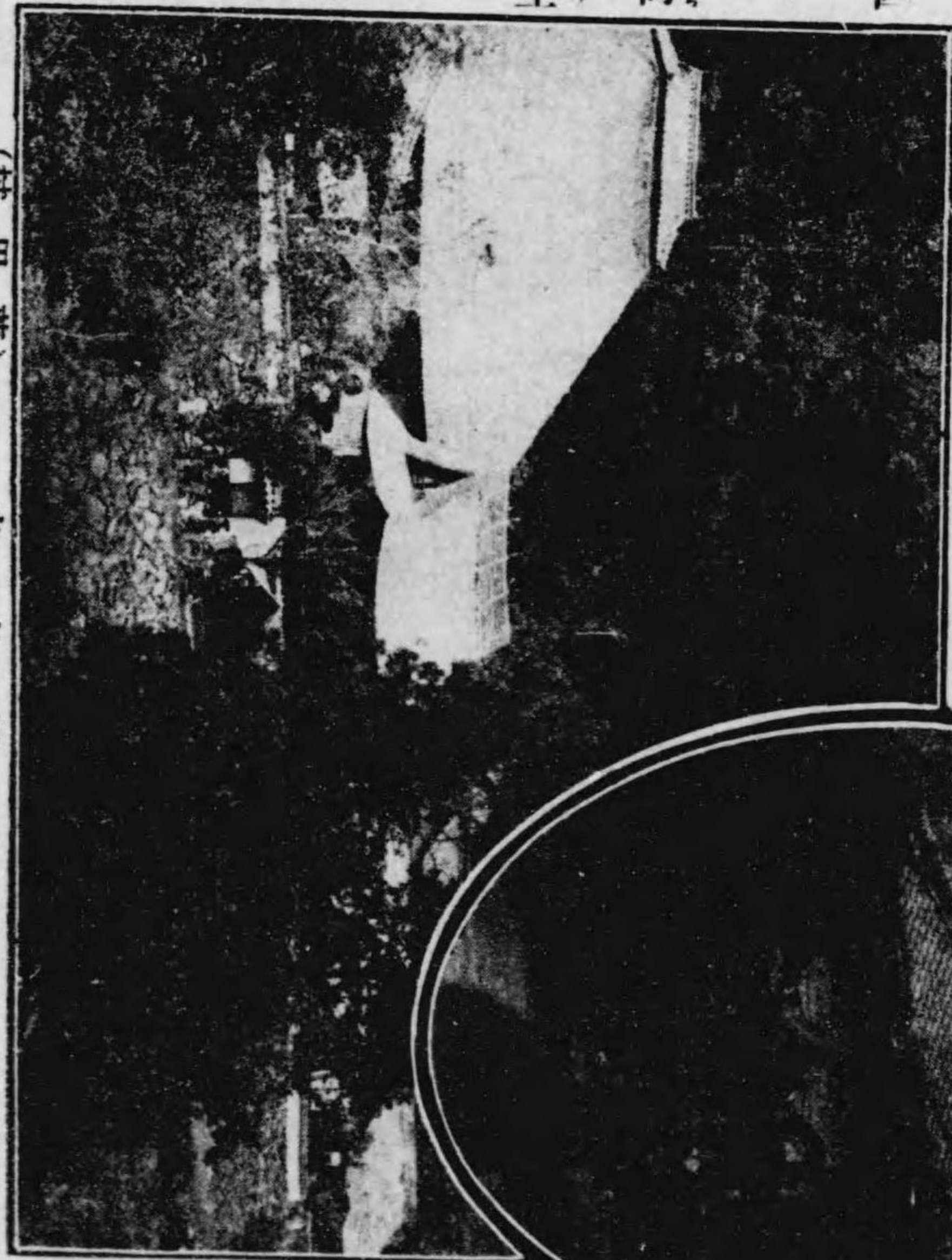
肱川の香魚

本縣第一の大河なり頗る舟筏の利便を得たる肱川は、又昔より夙に名産の香魚を以て名が高い、大洲の鮎は昔毎年一回將軍家へ焼鮎として献上せしものにして其味頗る妙である川筋一体小田川、宇和川筋の上流にも澤山ある、釣り、掛け、投網等其漁獵の方法は色々あるが瀬張り又は築瀬の方法でも獲物は中々多しといふことである

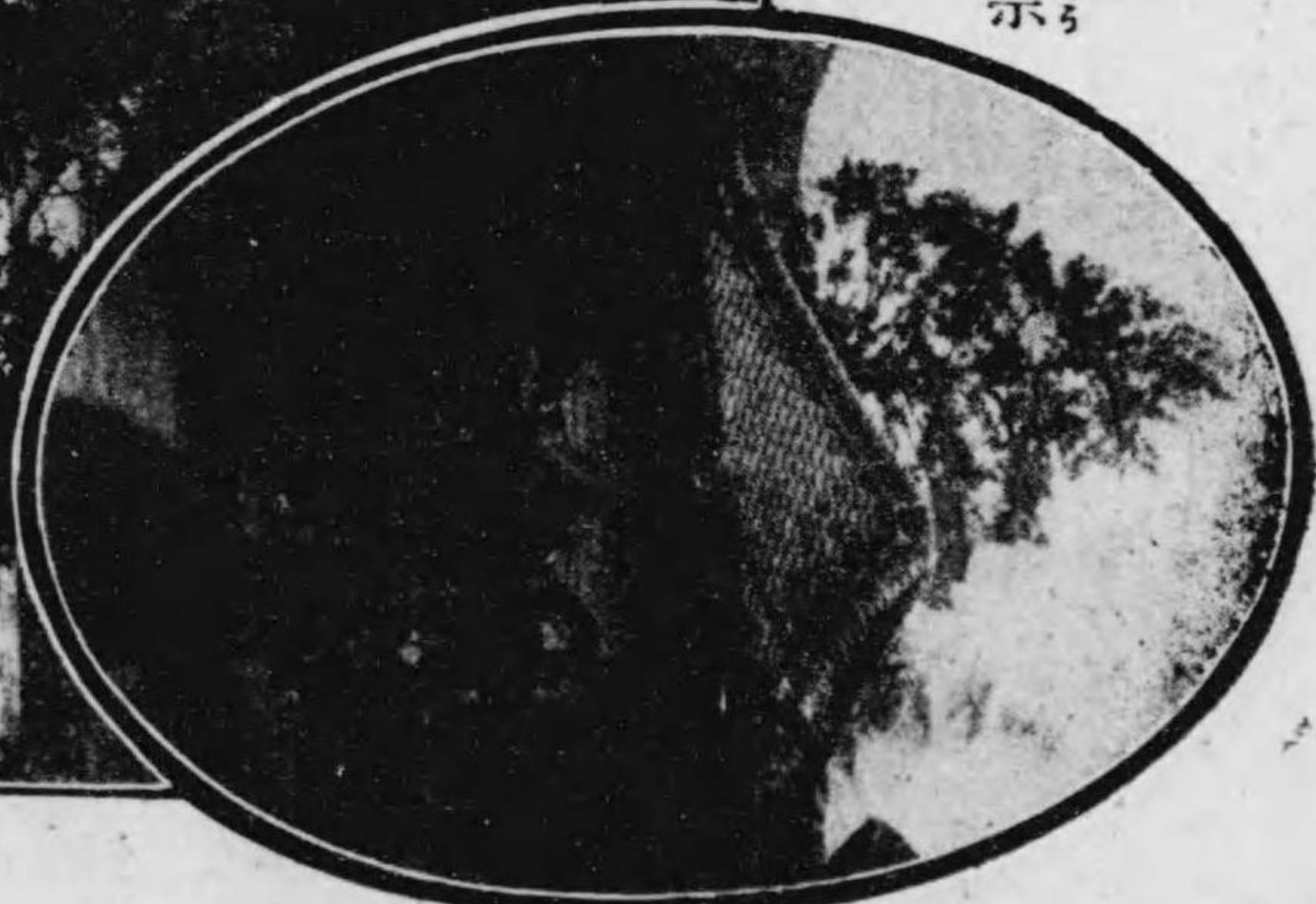
瑞光山溪壽寺

(菅田村)

後小松天皇の御宇、應永元年の開創にして開山は祖宗大師より六世の孫春祖東禪帥曹洞宗能大本山總持寺の直末にして寺格は四國最初の禪林なり、十一世中興海門和尚の住職中、大洲城主加藤月窓公の歸依により其の名著はる、菅田村大字宇津にあり。



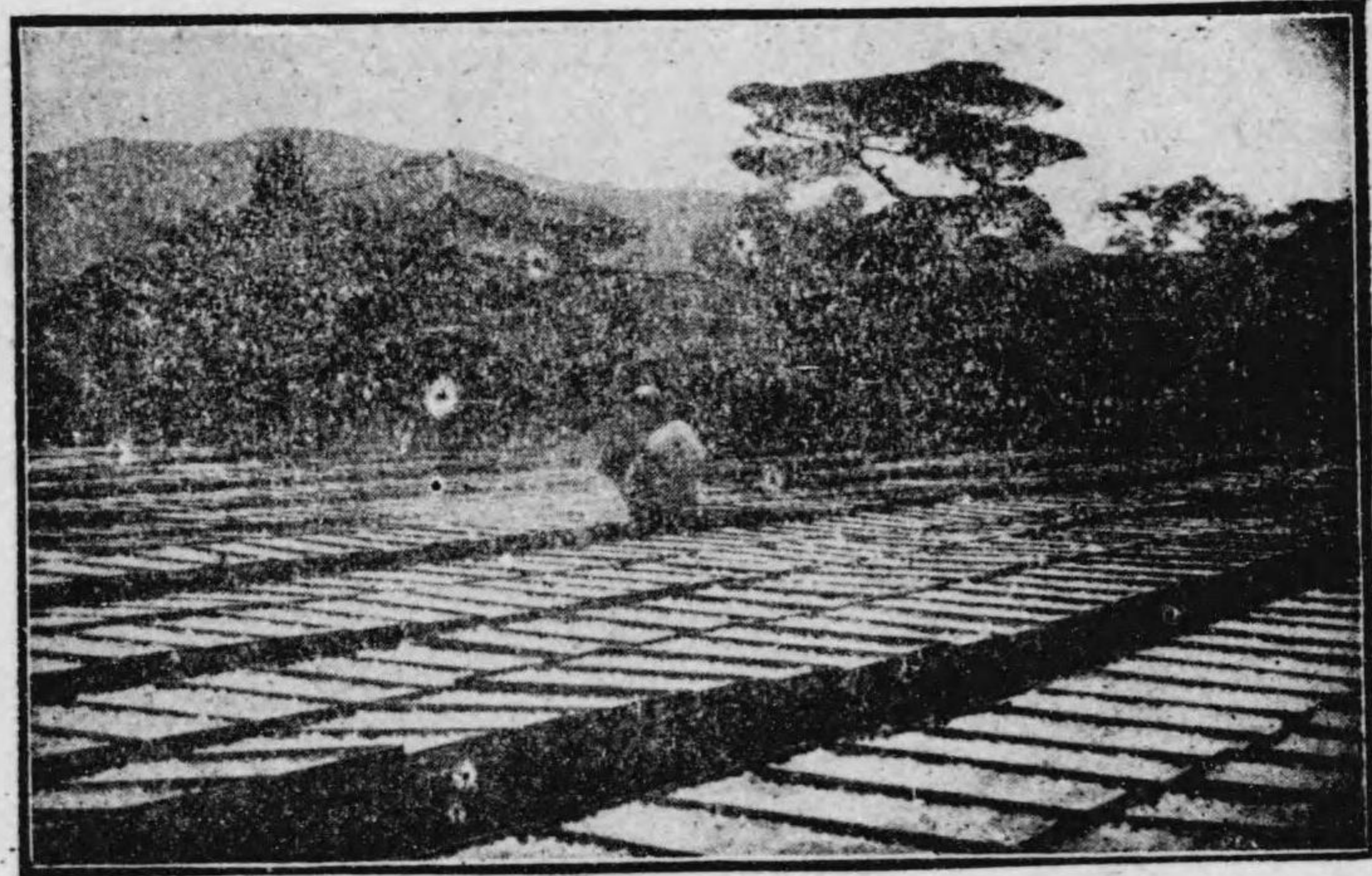
菅田村 瑞光山溪壽寺



瑞光山

大洲の蠟晒

大洲の蠟晒は往古より藩主加藤家の事業として經營なしつゝありしが維新の際民間事業に移りしものにして其名海外に響きしも故ありと云ふべし。而して現業者は何れも斯業に成功なきはなく現今稍衰微の徴ありと雖も茲一番奮勵を望むものなり。



上甲氏晒工場

金山出石寺

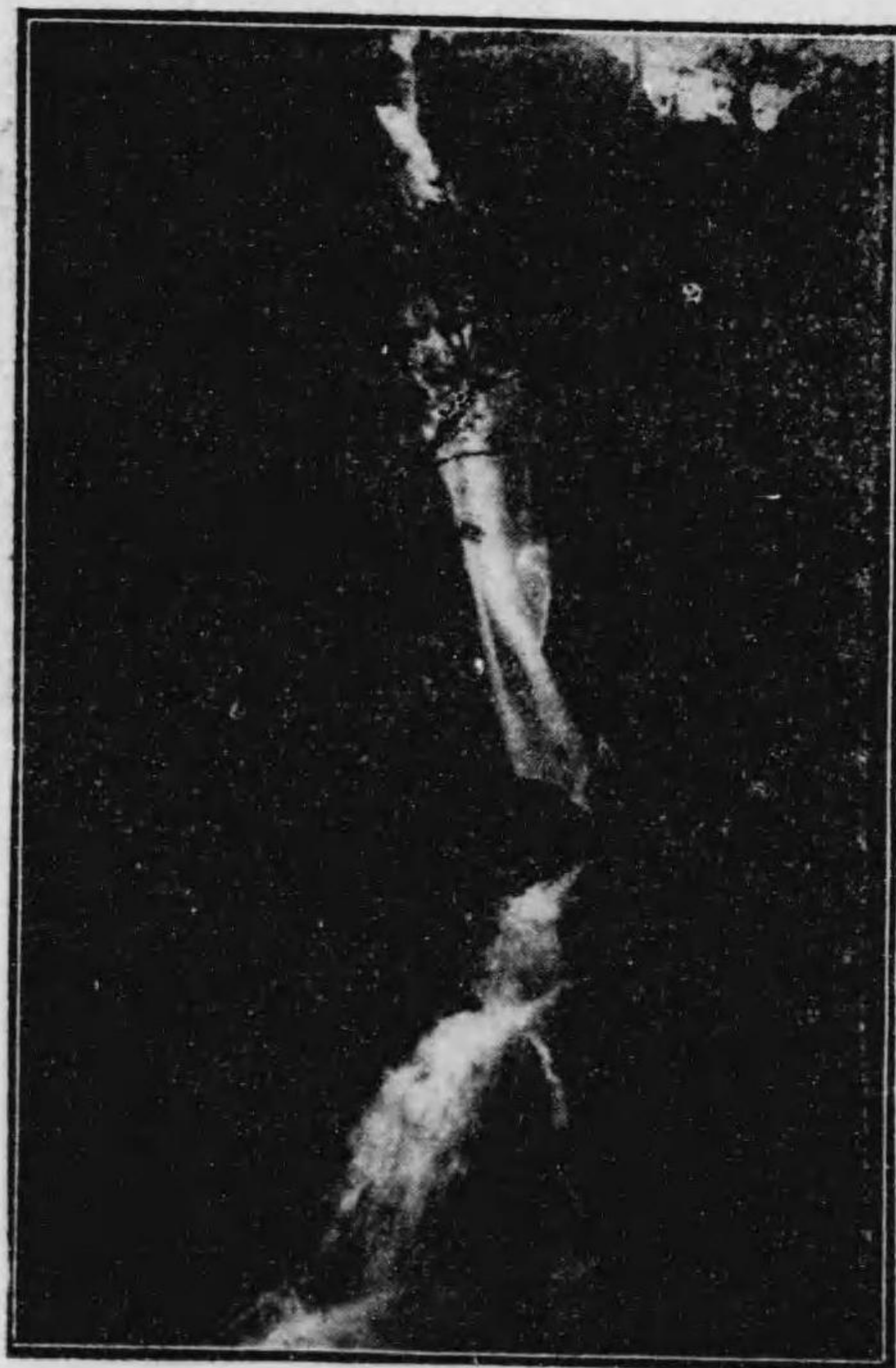
(上須戒村)

豊茂村矢野崎山にあり、大同二年弘法大師久しく爰に錫を留めしを以て名あり、大師所傳の錫杖寶劍、佛像等を納む文化五年堂宇落成して今に至り、宇和島城主伊達家大洲城主加藤家の崇敬淺からず、大洲町より三里地高うして避暑に宜し。朝寒や行事に焚く護摩火の白ふ不及

十夜ヶ橋大師

(大洲村)

大洲町より新谷町の間なる国道筋にして大洲村にあり、大師堂、通夜堂、傍に架せる十夜ヶ橋といふ、平城天皇の大同二年僧空海巡錫の際、比也と一室の間に架せし供養するものなかりしかば、是非なく一夜を小川の七橋下に明しぬ、蓋し空海が十夜の長きの思をなして一夜を明かせし故なりといふ。



加屋の白瀧

加屋の白瀧

瀧川村大字加屋より登ること三町白瀧公園にあり、雄瀧、雌瀧、來光の瀧の三つあり

て雌瀧殊に其名現はる。雌瀧は高さ百四十尺、幅二十四尺瀧壺ノ廣さ十六坪に及び百雷霹を裂いて飛泉聲を作し、巖に碎けて珠と散り雄麗神澄み氣渡るの壯觀、夏猶は寒きの想あり、春は櫻花、秋は溪間の楓葉に宜しく、盛夏又、避暑納涼の雅客競ふて加屋町爲めに露ふといふ。



矢野玄道先生最後の絶筆

(平野村姫野覺彌氏所藏)

遊加屋白瀧

大洲河野遊仙

自吟吾本號遊仙

疾在煙霞豈易痊

紅葉滿山遮白日

碧苔蒸水迸清泉

靈湫音有樵童汲

古洞今無漢父傳

秋色留人猶未去

暮雲已合万松巖

金 融 機 關

維新後藩政改革の餘波を受け大洲町は、其影響する所の打撃は一般商家にとつても蓋し少々では無つたのである、夫が爲め地方商業界の萎靡して振はざるは實に甚しいみじめな状況を呈したのであるが明治二十年頃地方の先覺者は製糸工業に着眼する機運に嚮ひ、一方地方の養蠶業はるる、進歩發達の時節が到來して來たと同時に、久しく眠りに眠りを重ねて居つた地方商業界も追々と進んで來たので其金融機關に於ても、漸く茲に芽を出すに至つた。

全三十二年當町有志相謀り資本金三万圓を以て、銀行を設立し「大洲銀行」と稱して營業を開始し、續いて全廿九年に至り地方商業の順調なる進歩に伴ふて、必要の上から又も「大洲商業銀行」といふのが貳拾萬圓の資本金を以て花々しく旗揚げを爲し、對岸の中村には又「喜多銀行」生れ爰に地方の金融界は三派鼎立の勢を示して以て今日に至つたのである。

爾來三銀行共夫れ、増資を行ふて大洲銀行、商業銀行の二行は資本金六拾萬圓に喜多銀行は貳拾萬圓と成ります、好果を收めつゝあるが更に肱川鐵橋の開通に道路の四通八達に加ふるに愛媛鐵道の開通するに至らば斯界の發展は蓋し現時に數倍するの盛況を見るべし。

大 洲 村 一 覽

功勞者(故人)		名 所
高木長兵衛△上野政 繼△山林綱藏△棚橋茶 齋△山田松太郎△大 井上輝前△武田龜五 郎△武田斐三郎△松 本祥禎△高山峯三郎 △宇都宮宇都子△檜 田李△山本盛三郎△ 田榮△左衛門△永見喜 平次△東傳八△友田 八郎△兵衛△畫家若宮 養德	三底無笠 玉夜ケ 十哲 瀬寺 本草	
製糸工場 四千六百貫戸 製糸産額 三千六百貫 製糸價格 貳拾萬圓 製糸工女 二百五十人	銀行業一、酒造業四、 吳服商三、醬油商二、 穀物商十五、煙草商十 三、雜貨商十一、旅館 業七、料理店七、開業 醫二、小間物商八、養 蜂業一、自轉車業一、 寫真師一	中村郷社大明神社 山口村天滿神社 若宮全神明神社 市木全一宮神社 德森太郎神社 五郎宇都宮神社
本縣原蠶種製造所は本 村若宮にあり	本郡蠶種業組合の蠶種 冷蔵庫は中村渡し場に あり	中村東禪寺 全本誓寺 若宮西光寺 五郎城願寺 德森永徳寺 全松林寺 市木景光寺 全木光寺 全田光寺 全口光明寺 全性庵

鳥坂峠並松

(南久村米)

大洲町より宇和島縣道の難所に
して南久米村北只より約三里の
鳥坂街道並松は道路の左右孰れ
も百數十年前の老松參差として
羅列鬱蒼し、巨幹天に翻つて
紺碧の緑滴るが如し、長蛇蜿蜒
として六十餘町峠に登れば遠
望東顧遙に大洲地方の山河手に
取るが如く西に東宇和多田一帯
遠く宇和地方雲霞の指呼にあり
縣下の名跡なり。



鳥坂の並松

天長山
清源寺

(大洲町)

万年山大禪
寺の末寺に
して禪宗臨
濟派なり、
本尊は釋迦
如來を安置
す。永正八
年宇都宮遠
江守豊綱
の開創にし

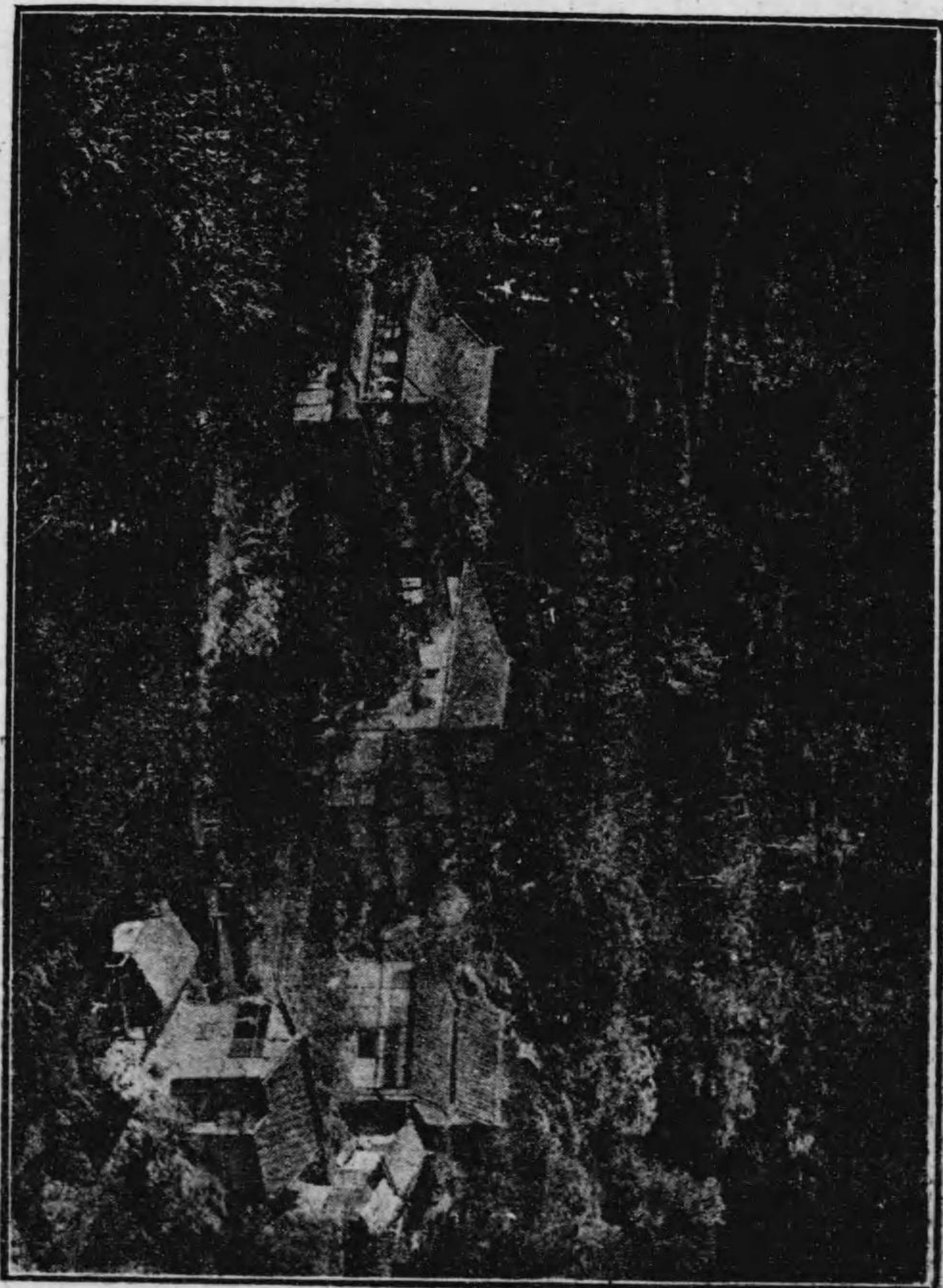
泰政和尚を始祖とす、初は京都東山南禪寺派にして泰政より法系相續く事五世、正
徳二年に至り二百二年を経たり、六世瑤堂和尚大禪寺三世融山の法を嗣でより始め京
都花園妙心寺派となる、今茲に大正二年に泊て寺門連絡する事殆ど四百三年なり
境内に日切地藏尊あり
九世吟翁の世に若宮よ
り勸請し後ち稽岳の世
に現今の堂を建立す、
遠近の賽客集ふて其靈
驗や著し、觀音堂あり
心の池あり、佛教婦人
會事務所を置く。



清源寺日切地藏尊

秋の水心の池に澄にけり不及

小敷温泉の泉



小敷の温泉

大洲町から肱川の上流五里、五十崎町からは坂石線の新道三里で宇和川村は小敷の温泉に出る。

夏を知らない避暑納涼の別天地としては眞に伊豫の小箱根の稱がある位で、紅塵の万丈を避けた自然の山水に親しむ幽邃閑雅な娯樂場所、保養場所として好適の場所である。

無色透明な心地の快いすべくした結構な炭酸泉で各種の皮膚病、關節病、花柳病、子宮病内服としては胃腸の諸病に効験が有るので四時湯治客の絶へ間がない

喜多郡宇和川村

小敷温泉 龍雲館

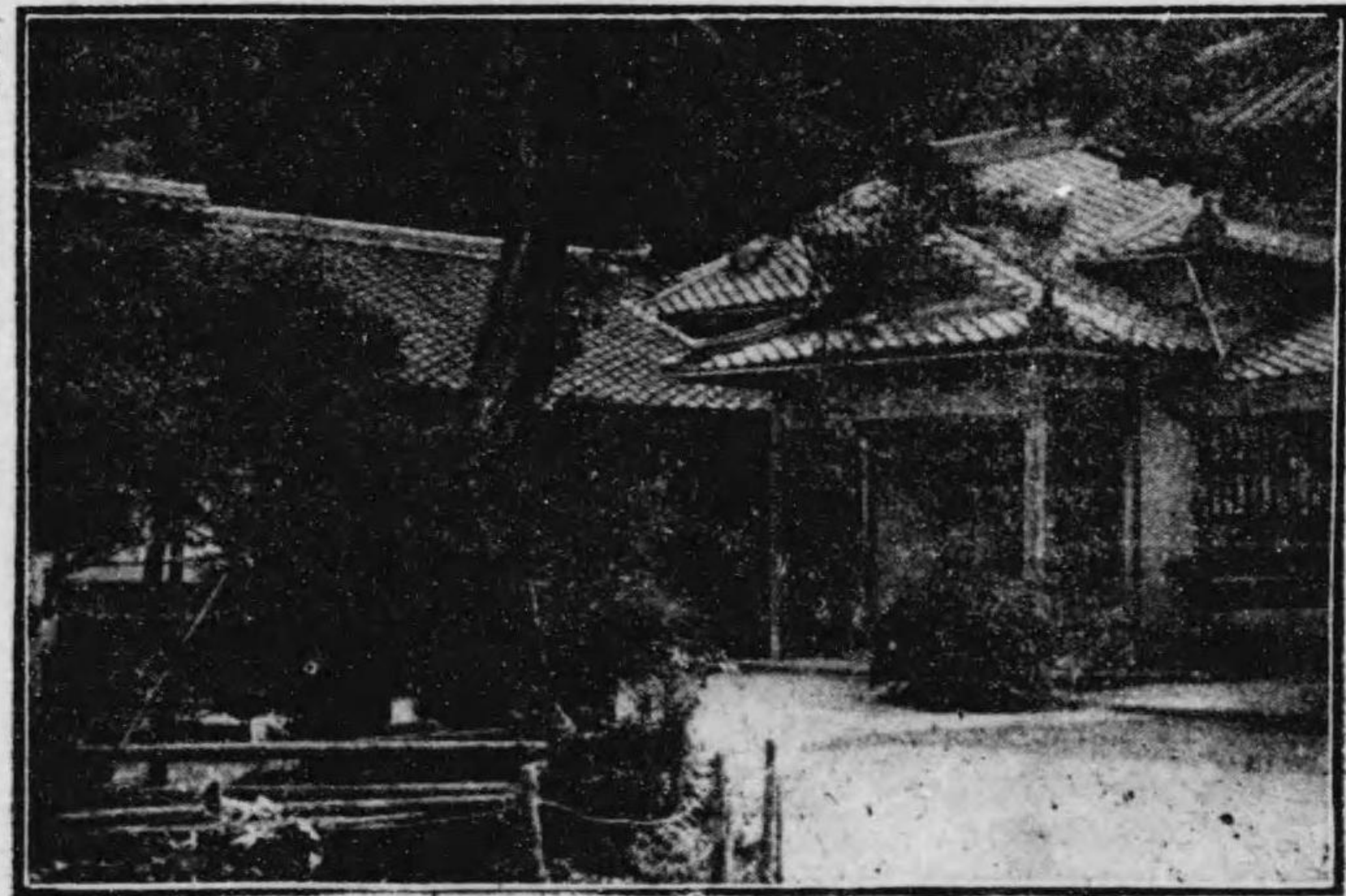
木賃の客は一日の室料から湯代、油代、夜具代を合してタツタ拾銭、旅籠のお客さんは同じく湯代が入らない山間に似合はぬ料理食事が新鮮で安價で中々以てハ

イカラである。どちらにしても保養かぬの遊覽客には持て來いの風流な別天地である温泉の直ぐ下手には喜多郡三瀑布の一つの美妙の瀧天狗岩等の頗る奇抜な名所がある、山を下つて、渡し場を越へて七八町で一寸した町の川邊村は鹿野川に出る。

法華寺 (久米村)

寛永九年久岳宗圓を請ひ屏山となし曹洞宗旨開演す、大洲の城主加藤田羽守の歸崇厚く再興助力し今に至り連燈之れを相續するも、維新の際門地門閣総て廢せらる寶永三年町内大火に罹り伽藍古記録寶物等悉く焼失し、享保十九年本堂庫裡を再建し現時二十一代の谷口活宗師に至る、明治十八年書院其他を改築す。毎月十二日には境り藥師の縁日あり、大正二年喜多佛敎免囚保養會を此寺に設置す、寶物には

藥師如來(丈三尺五寸行基菩薩作)、子守觀音、般若經六百卷、舊大洲城主加藤遠州大



法華寺境内

守泰吉侯筆十六羅漢(二幅對)、布袋於福(白隱和尚筆二幅對)、觀音上下龍(三幅對)寄附狀等あり



南久米村札掛尋常高等小學校

大乘山壽榮寺

久米村大字大洲にあり中興の開基天譽上人の次苦厭上人は豊太閤の二男にして幼名を捨松と呼ぶ晨香夕燈修業幾星霜なるを知らず、天明二年の春火災に罹り舊記、本尊、祖像等悉く焼火す、中興以降何世を経たるや審ならず享和二年之を再建す。當山は壽永年間の開建義圓和尚の開きしものにして本邦屈指の名刹なりしに天明の火災に焼けたり當山より西南七町大洲村字八尾に一字あり浮舟山大蓮寺と稱す此寺は當

南久米村一覽

大洲町から宇和島街道に當つて居る南久米村は戸數七百五十戸人口三千六百あり、大方は山で山林反別が一千百四十町、田が二百七十餘町畑が四百五十六町ある、大別して柚木、北只、松尾、梅川長谷、稻積、久保、正信、野佐來、黒木部落となる昔から有名な富士山如法寺……東宇和郡へ山越の難所たる山道三里の烏坂峠は頗る美事で古い並松で名高い人物には故人では近田綾次郎氏、現今では同村長で縣會議員たる小倉通勝氏がある、菅田村に接して居る梁瀬山は舊大洲藩主加藤公の所有地で全家の巻狩りありし古跡なり。

大元神社外二十二社あり	久保龍光寺	全信常成寺	正信願成寺	稻積幸田寺	黒木西福寺	北只栖岸院	柚木如法寺	社あり
梅川の龜山	如法寺觀音堂	鳥坂峠並松	札掛及札掛庵	梁瀬山				

山中興より第十世高譽上人山蓮社刊天大和尚出て之ヲ開基せり、明治四年大參事山本眞彦大蓮寺を廢し檀器物は當山へ合併位牌段の三尊は田ち全寺の本尊なり、其際開山の靈も登山へ遷せり石牌は猶徳正寺庭前に



大洲町赤松庵庭園

龍護山曹溪院
舊大洲の藩主加藤貞泰の父光泰初めて美濃國里野に建立せしものなりしが、當地に轉ずると共に曹溪院に移る、元和三年なり、寶物には嵯峨天皇御筆紺紙金泥大般若經、光格天皇の震筆、繪旨六通を藏す如法寺と共に加藤家累代の菩提所なり昔は相當の格式ありて、名利とて威勢頗る隆かりしも今は寂びれて見る影淋し。

大 洲 の 電 話

● 官 衙 學 校	● 本 町 通	● 銀 行	● 旅 館
五九 喜多郡役所	● 本 町 通	● 銀 行	● 旅 館
三九 大洲區裁判所	二 大洲銀行	一 大洲商業銀行	九九 山本林太郎
五六 大洲稅務署	三 喜多銀行	● 本 町 通	九 久松次
四九 大洲警察署	● 銀 行	● 本 町 通	● 旅 館
五二 大洲町役場	● 銀 行	● 本 町 通	● 旅 館
七七乙 平野村役場	● 銀 行	● 本 町 通	● 旅 館
八九 大洲村役場	● 銀 行	● 本 町 通	● 旅 館
六九 大洲中學校	● 銀 行	● 本 町 通	● 旅 館
● 書 林	● 小 間 物 商	● 履 物 商	● 米 穀 商
二七 足立 守寛	● 小 間 物 商	● 履 物 商	● 米 穀 商
三〇 料理旅館	八三 栗田永治郎	四〇 尾崎竹治郎	一九 河野 ヲウ
七九 洋服商	● 共 立 檢 番	● 日 野 水 秀 太 郎	一六 中川 重志
四四 松樂亭	山泉 保治	● 尾 崎 竹 治 郎	● 米 穀 商
五四 東京亭	島田 仁吉	● 日 野 水 秀 太 郎	● 履 物 商
八七 書 林	島田 忠藏	● 日 野 水 秀 太 郎	● 米 穀 商
七五 肥料商	福居 澄雄	● 日 野 水 秀 太 郎	● 履 物 商
八二 藥 舖	篠崎友治郎	● 日 野 水 秀 太 郎	● 米 穀 商
六三 雜貨商	松根 文一	● 日 野 水 秀 太 郎	● 履 物 商
一一 酒 醬 油	松田源四郎	● 日 野 水 秀 太 郎	● 米 穀 商
● 洋 服 商	田中熊治郎	● 日 野 水 秀 太 郎	● 履 物 商
● 料 理 旅 館	小西 テイ	● 日 野 水 秀 太 郎	● 米 穀 商

▲ 少 壯 實 業 家

上 田 集 一 氏

菅田村の人にして一時教育界に身を投せし事ありしも、後實業界に入り東都に上りて藥業の研究を積み、東京獨逸藥館と特約を結び、是が擴張に全力を注ぎ四國一圓元賣捌所を経営し、四國總支局長として斯業の發展に努力しつゝあり、氏の如きは少壯實業青年の前途ある活動奮闘の花と謂ふべきなり。



大 洲 の 電 話

七三	時計商	伊東棟太郎
一〇一	藥舖	岡本文太郎
二〇	吳服商	吉元誠一郎
三五	吳服商	河野忠太郎
六五	反物商	磯崎平治
八〇	茶商	小西弦之助
九〇	齒科醫	●末廣町通 笹田 治水
四二	置屋	金橋利三郎
六七	料理	澤田春治郎
三八	●志保町通	大洲町魚市場
三一	油商	岩村芳太郎
九二	小間物商	虎田 マサ
一七	蠟製造	村上長治郎
一八	蠟製造	村上 莊三
六六	生魚商	渡邊 彌吉
四五	雜貨商	河野 高芳
八八	度量衡器	横田覺三郎
五五	料理玉突	浦上馬太郎
四	雜貨商	一村勘太郎
八四	製糸業	河野真太郎
九一	醫士	今川 安宅
八六	●旭町通 米穀商	●浮舟通 松村清太郎
一〇四	●三ノ丸通 郵便局長	細川清三郎
九	製糸業	河野駒治郎
三六	機業部	河野竹三郎
七八甲	雜貨商	水沼昌一郎
七八乙	菓子商	板倉龜太郎

大 洲 の 電 話

五八	小間物商	大木 牧衛
二三	料理旅館	喜多岡健太郎
一五	料理旅館	由井恒太郎
七四	醫士	河野 通俊
一〇	吳服商	大本鐵三郎
九七	旅館	土居 爲藏
二八	紙活版	瀧喜久治郎
二六	製糸業	程野 彌七
七一	●中町通 回漕店	長岡徳治郎
五〇	雜貨商	淺田千代吉
九四	米穀商	菊池牧太郎
七六	旅館	久保 一郎
二四	酒醬油	小西安之助
六二	雜貨商	高橋久太郎
九八	旅館	宮井 要
六四	雜貨商	古森多重郎
六八	活版業	淺田 基吉
一三	酒造業	岡田 悅三
八	金物商	大野龜太郎
五	醬油酢	大野 徳七
二五	銀行頭取	須内實三郎
五三	伊豫水力電氣株式會社	大洲出張所
三三	金物商	玉城龜三郎
三二	吳服商	玉井甚十郎
八一	自轉車商	稻生 福彌
八五	小間物商	尾崎國太郎
一二		程野彦太郎
九六	醫士	小倉 儔
六	繭屑物	榊田與三郎
五七	陶器商	榊山元三郎

大洲の電話

五	生糸商	大川伊三郎
一〇二	酒造業	加藤家事務所
一四	大洲銀行	池田友治郎
三四	支配人	檜田 一
六	●榊形、山根通	
六一	寫真師	赤松 重老
七〇	製糸業	榊山 玉吉
番外一	公衆電話用	
〇番	局用及電報託送用	
六〇番	線路障礙用	
●中村		
三七	製糸	河野製糸分工場
二一	醬油酢	梶出皿三次
四一	自轉車商	上田慶三郎
四八	醫士	今川 績緒
三二	酒造業	徳田 甚吉
九三	小間物商	岩城 兼吉
四六	蠶種商	二宮千代藏
七二	雜貨商	二宮 修一
四三	製糸業	喜多製糸會社
四七		大洲村魚市場
一〇三		伊豫水力電氣株式會社 若宮散宿所
●平野村大字野田		
七七甲	醫士	姫野 覺彌

秋日登金山出石寺 雜詠五首

大洲 河野 遊仙

金山喜多郡名刹也、本號雲浮山空海
所創實爲觀音薩埵靈場

其一

跋步金山古道場 石門纔出雨蒼茫
紛紛莫是龍妃淚 洗盡塵氛天地涼

其二

鐘韻漸知蘭若近 溪深半被雲煙隱
霜楓織錦滿山秋 無復色空迷二畛

其三

空山一路入羊腸 天籟珊瑚老樹香
下界雲浮如大海 共誰把權轉慈航

其四

飛錫重昇兜率天 寶樓珠閣紫微連
白雲漂渺渾無記 辜負天悲三十年

其五

寺與山同聳 山靈寺亦存 白雲藏寶塔
翠柏護瓊門 鶴老蓬萊淨 僧棲席釋尊
傳燈輝万古 晝夜救元元

大禪寺坐禪會 全 人

万年山不動 深入大禪那 堂古松生瓦
砌幽離在柯 朝參銷百慮 夜坐證三摩
雲斷如來現 斜陽綠黛多

大 洲 の 華

商家千軒立ち列ぶ、生糸の光り年々に彌や榮ゆなる大洲町にて、いろくど「華」と名の着品物として、其数少なからざるが中に、取り分け各種の事業に就て、久しくも又珍らしき、人の誇りとなるに足るべき、勤績二十箇年以上を越へたる花夫れぞれの功勞者を調べて見れば下の如うなり。

大 洲 町 二 十 年 以 上 勤 績 者

▲三十年	▲廿七年	▲廿五年	▲廿四年	▲廿三年	▲廿二年	▲廿一年	▲二十年
全大洲小學校	喜多郡役所	大洲裁判所 河野吳服店	全河野眞工場 河野眞工場	喜多郡役所 油屋旅館 程野製糸場	全喜多郡役所 岡本次郎九郎	程野製糸場	全小西旅館
大藤親	和田保	中村高太郎	尾崎高太郎 鎌田安次郎 尾崎鹿三郎	倉谷のぶ 梶原のゆう 藤井安太郎 菊地忠明	曾根たけよ 平岡おたつ	丸田さかへ 眞城マサ	久松友二郎 柴田織太郎 沖いし

欠



名士の面影

▲暹羅國前准皇族 政尾藤吉氏

法學博士にして大洲町の人なり暹羅國法律顧問として全國の政務を掌ること十有九年大正二年辭して東都に移住す、任地に有るや久しく全國皇帝陛下より准皇族の優遇を忝ふし辭して猶陛下の優遇なる御説と生存中の年金を下賜し玉ふ。

古今を通じ東西を問はず異域斯くの如き榮譽に浴し功成り名揚りし國威を宣揚すべき國家の功勞者は實に氏を以て嚆矢とすべく、又帝國の光輝なりと謂ふべし、喜多郡にして此の人を生む、縣下の誇りなり、帝國の譽れ也。

▲伊豫鐵道會社社長 井上要氏

菅田村の人にして伊豫鐵道會社社長たり愛媛進歩黨主領たり、其他縣下重要實業界に關係せるの多きは殆ど枚舉に遑あらず、氏の手腕、氏の聲望世既に定評あり人と爲り機略縱横、才氣喚發して留むべからず、松山市豊阪町に在り。

欠

▲大洲銀行支配人 檜田一氏

喜多郡の出身にして而も早くより郷を捨て名を成せるもの法學博士政尾藤吉氏あり、日清生命保險會社取締役池田龍一氏あり、代議士高山長幸氏あり、大井上海軍少將あり、故人には前外務省通商局長長瀬岡薫五郎氏あり富豪池田貫兵衛氏あり、雅人には洋畫家の泰斗中川八郎氏あり……其郷に留まりて名を成せるもの現大洲銀行の牛耳を取れる檜田一氏の如きはあらず。

▲生系王 河野駒次郎氏

各種の事業に秀でたる我愛媛縣下の人物

を通過するに、苟も是を他縣に推し出して

しても耻かしくないものに、鐵道王井上要氏あり、海運王に宇和嶋堀部彦次郎氏あり、林業王に上浮穴井部榮節翁あり、鑛山王に西宇和矢野莊三郎氏あり、眞珠王に南宇和小西左金吾氏あり、而して喜多郡大洲町に、實に縣下の生系王河野駒次郎氏其人を得たり。

▲前大洲町長 松原綱倫氏

前大洲町長として功勞多年、又大洲實業研究會會長たりしも辭す、今の大洲町の發展は一に氏の盡力多大なりしを信じて疑

はず、男弘綱氏海軍少尉として曩の日露の役、先んじて名譽の戦死を遂げたり。

▲縣會議員 故有友正親氏

菅田村の人にて大正二年縣會議員就任中歿す、又本郡進歩黨の首領として令名あり、既往喜多郡發達史を綴らんと欲するものは、必ず此人を逸すべからず。

▲養蜂王 下井小太郎氏

前に喜多郡長たり、後本郡養蠶界に貢獻する所頗る多し、現に下井式養蜂巢礎の發明者として全國巢礎界の霸王と稱せらる、温厚にして確實なり。

齡正に六十有五、其元氣の潑瀾たる壯者を凌ぐの趣あり。人、功成りて氣樂しく、二本松の畔、邸廣うして家般やかなり。

▲大洲商業銀行頭取 須之内實三郎氏

大洲町の人なり商業銀行頭取にして實業研究會會長なり大洲町に於ける實業界を識らんとするものは、必ずや先づ氏を訪ふべきなり。

▲大洲銀行頭取 村上長次郎氏

製蠟家にして資産家なり。風は春を望んで胎蕩爛熳に平野に吹くが如く、川は涼

を含んで清風の朝に棹さすが如し、大洲町に村上氏あり……

●大洲商業銀行支配人 浅田千代吉氏
頭腦明晰にして、微致周到、企業密にして商算謬らさず、度は天を呑み、量は水を滔る、嗚呼大洲商銀氏の爲めに生く。

●縣會議員 小倉通勝氏

南久米村長にして喜多郡産牛馬組合長たり、大正元年推されて縣會議員となる、寡言にして質朴、著實にして遜讓の量あり、聲望隆々、村閭風をのぞんで靡くが如し。

●大洲郵便局長 細川清三郎氏

大洲町の人にして嚴父久吉郎氏の後を襲ひ郵便局長として勤績茲に十余年、地方通信界の發達は一に氏の努力貢獻に頼る處大なり、地方少壯奮闘家の好先驅たり。

●平野村 姫野覺彌氏

醫學得業士なり、本郡刀圭界に於ける珍士にして又論談風を發する雄辯の人なり、平野村の代表的人物は氏を措て他に之を需む可き乎……

●大洲町長 神山吉物氏

舊大洲藩士にして金山出石寺住職神山諦

●天神村 栗田邦往氏

平岡の素封家にして嘗て郡會議長たり、現に内子銀行及ひ新谷銀行監査役として地方實業界に重きを置かる男熊男氏蠶種製造家として既に成功せり。

●大洲町 榎田與三郎氏

繭、生糸屑物商として成功せるもの蓋し氏の右に出づるものなし中町三丁目其商店を掌る。

●大洲商業會長 岩村芳太郎氏

製蠟家にして石油肥料商を營み北海道に

●河野公平氏

八幡濱町河野活版所主にして前全町助役たり全地實業界の重鎮として常に代表者の榮譽を擔ふ資性淡泊にして頗る義俠に富み公共の志厚し大正二年氏が主宰せる皇國新聞を擴張して更に日刊一南豫新聞を創始す壯なりと謂ふべし

信氏の令弟なり。八幡濱、大洲、宇和島稅務署長として敏腕の聞へり辭して別子銅山會計課長となり、明治四十四年推されて大洲町長となる。

●大洲村 今川續緒氏

中村に邸宅を構へ醫を業とす、地方有數の勢力家にして又辯論家なり。園基及び茶道に精し。醫師にして一種獨得の勢力を有し地方政界に潑瀾たる尙平野村に於ける姫野氏の如きの觀あり。

支店を置く、大洲商業會長として地方商業の事に努力する事厚し。

▲大洲村長 井林純一郎氏

舊大洲藩士にして全村長として村治に盡瘁すること十數年、七十二歳の高齡を以て志氣の旺盛なる猶壯者を凌ぐの概あり漢學を能くし又雄辯、喜多郡に於ける名村長として令聞流る。

▲大洲町 故程野茂三郎氏

大洲商業銀行の創立者にして又本郡製糸業者の創始者なり(河野喜太郎氏と共)一門の繁榮是に過ぐるものなく一族小西安

之助、彦太郎、彌七、曾根高宗、万太郎氏等皆それの成功者なり。

▲大洲町 河野眞太郎氏

本町製糸業の濫觴にして斯界の功勞者なり、男河野高芳氏雜貨商を營む。

▲大洲町 村上莊三氏

村上長次郎氏の次男にて製蠟家なり前町會議員にして郡會議員なり。

▲大洲村 村上丈夫氏

株式喜多銀行頭取にして本縣農工銀行監査役たり朝鮮龜浦に模範農場を經營し又銀行業を營む

▲大洲町 助役 檜常三郎氏

前長濱警察分署長より推薦現職にあり、大洲町に於ける町政は氏の就任以來着々として好績揚がり、本郡中名助役の評あり。

▲大洲村 西山寅夫氏

喜多銀行専務取締役として勤続多年全行の今日ある又同氏の力に頼るもの多し

▲大洲町 故小西定吉氏

本郡に於ける畜産界の發達に貢献する所頗る多く、同業者相謀り氏の功績を不朽に傳へん爲め紀念碑建立の計畫應さに成

らんとす、人、死して餘榮有りと謂ふべし。

▲龜岡哲夫氏 三善村の人にして同村長

なり、本郡政界の元老として又實業界の重鎮たり。

▲三瀬俊三氏 縣會議員にして本縣畜産

界の成功者なり。大谷村の人

▲平塚健氏 新谷村の人縣會議員なり

▲芳我彌三衛氏 内子銀行頭取にして本

郡の資産家なり

▲松井健三氏 長濱町長にして資産家な

▲三瀬直哉氏 天神村の人にして醫學得業士なり

▲上甲謙吉氏 瀧川村の人にして本郡酒造組合長なり

▲福山安逸氏 宇和川村長にして小敷温泉主なり

▲龜岡佐太郎氏 粟津村の製糸家なり

▲赤松傳三郎氏 大洲町の出身にして三井物産會社横須賀支店長なり

▲藤田秀男氏 宇和川村の里正にして本郡屈指の資産家にして殖林經營者なり



大正二年九月二十五日印刷
大正二年九月三十日發行

定價 金貳拾五錢

著者 小川宗勝

愛媛縣喜多郡大洲町
七百十七番地第四

發行者 井口守

愛媛縣喜多郡大洲町
四百三番地

印刷者 岡野音彌

愛媛縣松山市榎町拾壹番戶

印刷所 合名 松山向陽社

愛媛縣松山市榎町拾壹番戶



發行所

愛媛縣喜多郡大洲町

井口右文堂

大洲案内大賣捌處



本町二丁目

足立守寛

全

三瀬書林

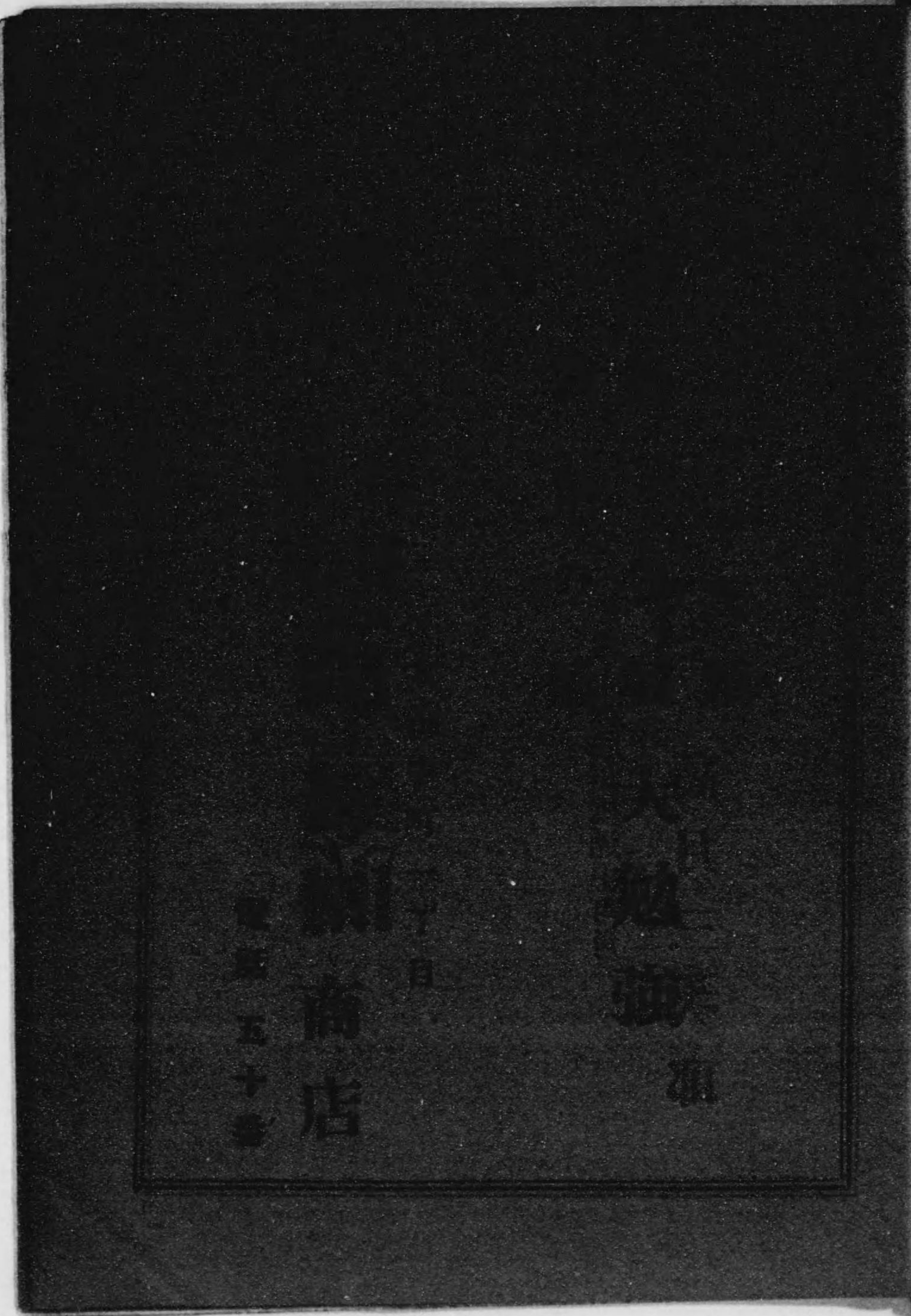
全

篠崎友次郎

中町二丁目

二宮新聞店

其他各旅館にあり



大洲案内大賣場



本町二丁目

足立守寛

全

三瀬書林

全

篠崎友次郎

中町二丁目

二宮新聞店

其他各旅館にあり

新開業

メリヤス類
帽子各種
大勉強
袋もの類

大洲中町一丁目

和洋
雜貨
商
松原商店

電話 五十番

諸國
紙産

卸小賣商

伊豫大洲肱川橋通中町角

夕 高月三次郎

諸新 聞

並雜貨小間物
いろく廉價販賣

特別大勉強

伊豫大洲町

二宮新聞舗

かどや

確實廉價

金物商

やまた

玉

玉城龜三郎

喜多郡大洲中町二丁目

電話 參參番

並硝子、セメント

大同生命保險會社代理店

製糸部

日本ビール
會社特約店

玉城 恒吉



宇治茶

並茶器一切

擊劍道具

大洲中町二丁目

小西弦之助商店

電話 八十番

茶盆茶臺

其他美術ロクロ細工
一切御好に應じ調製

製糸大梓用ネジ
製作販賣

大洲中村常盤町

山丸山商店

嫁入道具

西洋家具

並建具欄間

學校用具一切

大洲本町三丁目

七廣瀨商店

電話二十八番



最新流行

御履物

廉價販賣

大洲中町一丁目
郵便局前

都築商店

荷物運送業

並木炭販賣

伊豫國喜多郡
大洲本町一丁目

得能回酒店

諸官衙御用達

全國煙火競伎大會に於て數十回賞牌を受く

●會式の號砲

●宴會の餘興

美術

煙火製造

伊豫大洲
本町三丁目

永本脰煙舍

店主 永本長次郎

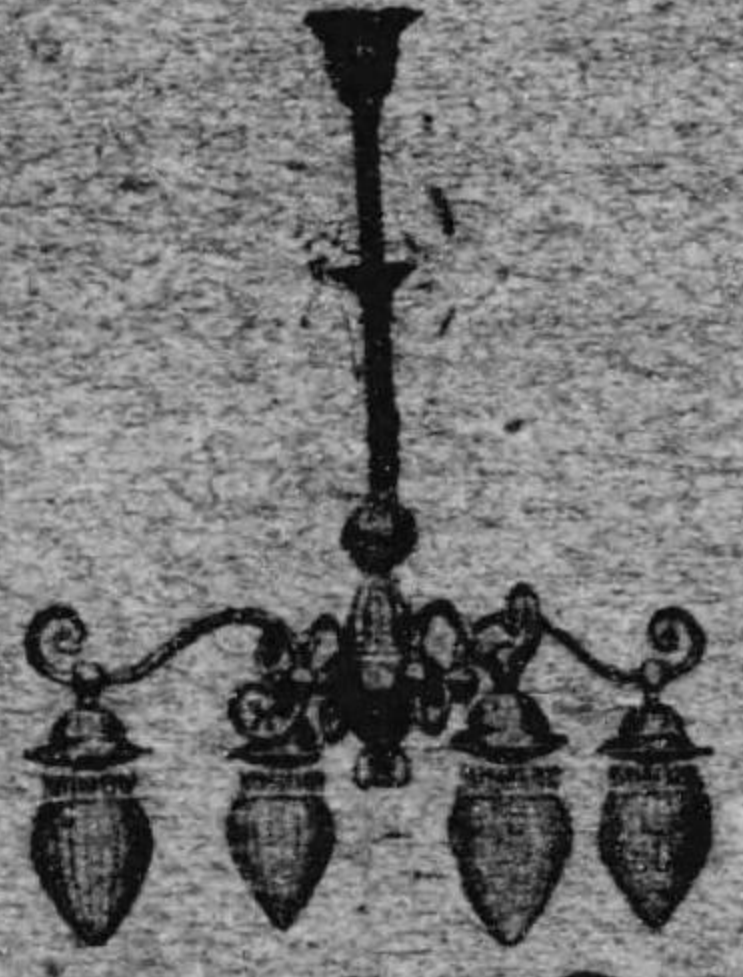
I j i n - D o .
DISPENSARY.

理化學用藥品
醫療補助器械
色素染料各種
工藝用諸藥品

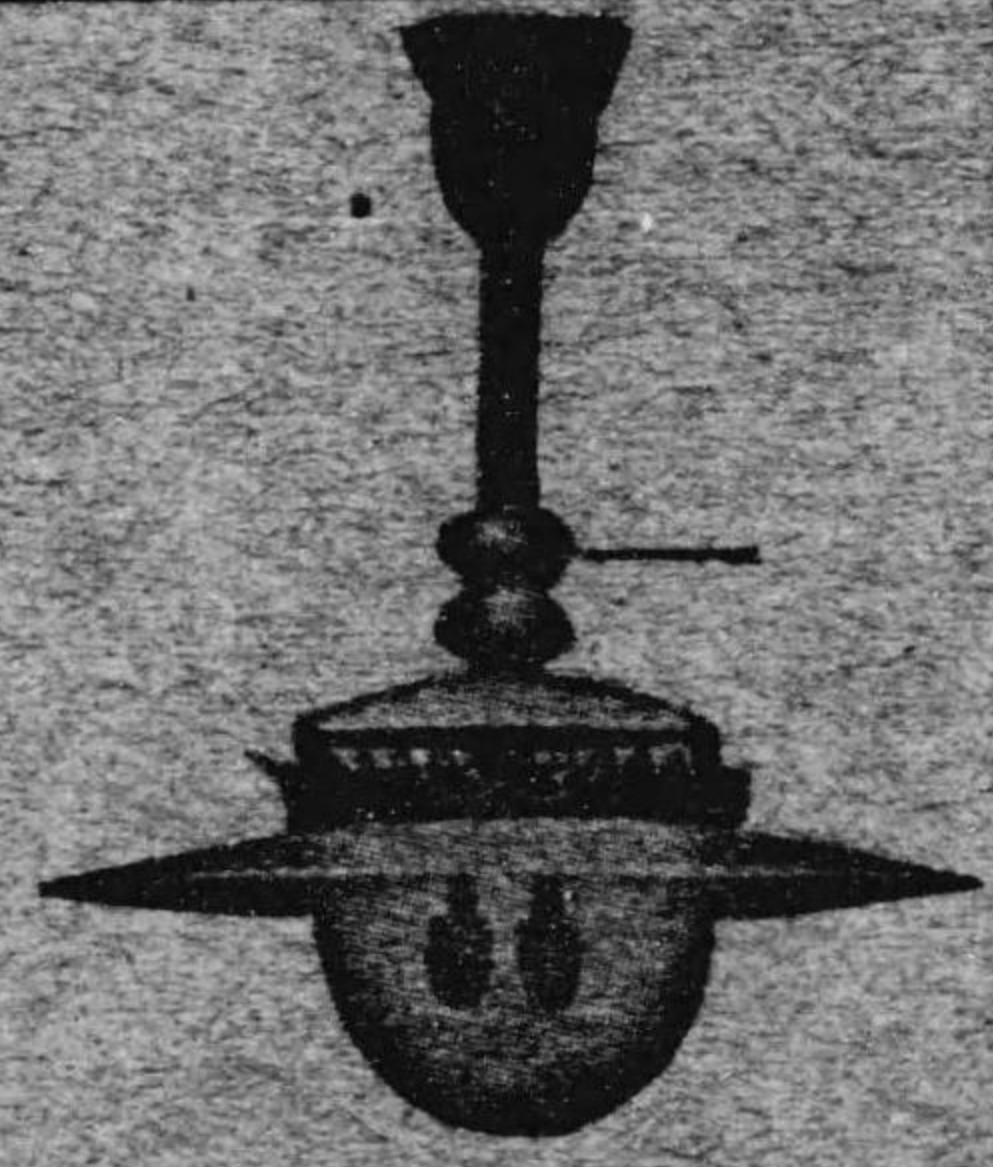
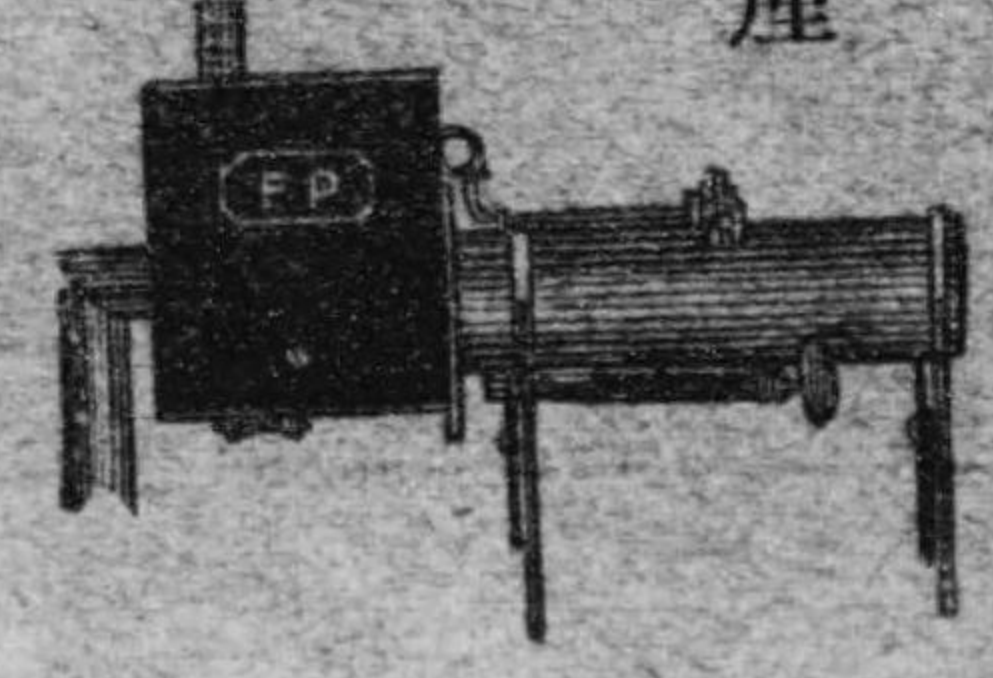
大 醫 方 處 調 劑
醫 仁 堂 藥 局
【番九九話電】 目丁一町本洲大縣媛愛

純良醫療藥品
內外有効賣藥
毒消衛生材料
高等化粧品類

エフビー安全瓦斯器械四國代理店



- 安全空氣應用瓦斯器械販賣
- 壹百燭光一時間消費料僅ニ參厘
- 燈數二燈以上貳百燈迄



時計
眼鏡

商 小西清商店

日本蓄音器商會特約店

伊豫大洲中町一丁目

內科
小兒科
專門醫院

喜多郡天神村平岡

醫學得業士 三瀬直哉

大洲中町二丁目

御旅館 みのや

二宮豊次郎

活版印刷

電動力を利用し一日数万枚を印刷す
迅速、鮮明、正確、廉價御調達仕候

帳簿製造、諸役所、學校、銀行、會社

組合等諸用紙類販賣

其他 石版、寫眞版、コロタイプ、網目版、寫眞

ハガキ等取次御調達仕候

愛媛縣西宇和郡八幡濱町

河野活版所

電話 五十五番
電信 零五番
替座口座大阪貳貳參壹七番

成功を望む人は見落勿れ

帝國陸軍軍醫正正六位勳四等ドクトル

募集

渡邊先生御方劑賣藥の
廿四方劑農家副業適當
各町村特約店新設す行
商販賣及店買特約希望の御方は參錢切手
二枚封入申込次第詳細販賣規則書送る販
賣方法は各町村農商家又は専業●新規開
業●行商販賣の各部有り契約なる上は看
板及廣告を送附す行商販賣は月收三十圓
以上を得るを保證す●相當學力風采ある
紳士を募集す外交員希望者は五錢切手に
履歴書送れ

東京市本郷區湯島四丁目

東京衛生館 本部

よくきく

薬は東京獨逸藥館製劑に限る

藥

獨逸醫科大學教授 十大博士 苦心處方
のみやすくて、よくきく
病を認めません病氣の
時は直ちに使人又は葉
書で左の
販賣店へ買いに御出なさい

東京獨逸藥館販賣店

特約店

- 愛媛縣大洲中町三 竹本初太郎
- 全縣大洲中村殿町 二宮 茂
- 全縣大洲中町一丁目 徳田 清夫
- 全縣喜多郡菅田村 上田 文吉
- 全縣大洲町三ノ丸 坂本 宮治
- 八幡濱稻荷町西詰 河野 長助

建 具 類

大洲中町二丁目

諸 道 具

中 野 商 店

漆 器 各 種

御 旅 館

並ニ御仕度所

和 洋 書 籍

教科書文房具類

大洲本町一丁目

松新事

白 石

大洲本町一丁目

足立文海堂

電話二十七番

諸物產賣買
繭生糸屑物
商

大洲本町三丁目
甲斐伊三商店

穀物類荒物

並烟草、食鹽

販賣

大洲比地町

尾崎寅太郎
店商

流行新形

御履物

確實勉強正札附

大洲中町三丁目

西本龜次郎商店

御菓子

名

代

栗饅頭

酒饅頭

櫻餅

大洲本町二丁目

朝日堂

繭生系屑物
材木板類
商

大洲肱町

梁瀬定馬

御旅館

名物

川魚御料理

大洲本町二丁目

松樂亭

電話四十四番

御旅館

研屋

大洲本町一丁目

電話二十九番

客間ハ肱川ノ河
畔絶景ニ富ム

御寫眞
撮影

大洲三ノ丸
笹川寫眞館

活版印刷

並製本

迅速確實廉價ニ調製致候

大洲中町二丁目

淺田活版印刷所

電話六十八番

露光量違いの為重複撮影

339
112

蘭生糸物商

林田與三郎商店

電話
電畧

六番
マヨ

伊豫大洲中町三丁目

富士瓦斯紡績株式會社
鐘淵紡績株式會社

原粉買入所

伊豫大洲本町二丁目

尾崎竹次郎商店

電話十九番

内外米麥
雜穀並馬糧

露光量違いの為重複撮影

307
282

富士瓦斯紡績株式会社

鐘淵紡績株式会社

原料買入所

伊豫大洲中町三丁目

藤生糸物商マ
株田與三郎商店

電話
電界

六番
マヨ



呉服

吉田屋

大洲中町三丁目

電話二十番

振替口座大阪
一七〇九番

339
282

終